

The logo features the text "St. Luke 2012" in a dark brown, serif font. The "S" is large and stylized, with a cross symbol integrated into its upper right curve. The "t" is smaller and positioned between the "S" and "L". The "L" is tall and narrow. The "2012" is in a similar serif font but slightly smaller and more widely spaced. Below the logo, the text "The annual report 2012.1.1▶2012.12.31" is written in a smaller, dark brown, sans-serif font.

**St. Luke 2012**  
The annual report 2012.1.1▶2012.12.31

医療法人**セント・ルカ**  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所



# 目次

巻頭言	1
一年を振り返って	
医局	2
心理専門相談室	3
看護部	5
研究室・培養室	7
受付	8
情報処理室	10
厨房	12
診療統計	
外来患者および妊娠結果の内訳	14
外来・入院数	16
入院数	17
妊娠数	18
初診後妊娠までの期間	22
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	22
IUI (選別精子子宮内注入法) による回数別妊娠率	23
ART (生殖補助医療 / 体外受精・顕微授精・GIFT) による妊娠	23
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	24
ART (生殖補助医療) による妊娠	25
ART (生殖補助医療) による出産および出生児の状況	25
異常児の詳細	26
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	28
行事一覧	29
論文一覧	41
著書 (共著) 一覧	41
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	44
スタッフ配置	47
病院概要	48



## 巻頭言

宇津宮 隆史

新病院に移転して2年になる。理想的な生殖医療を行うために設計した施設で、予期せぬ事案も少しはあるが、ほとんど90%以上満足している。また、予期せぬことに新患数が増加した。交通の便がよくなったことが理由であろう。分娩以外はすべて受け入れるという姿勢で今後も臨みたい。

さて、最近の大きな話題として出生前診断に関して、「母体血を用いた新しい非浸襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT)」が議論されている。これには大きな問題点がいくつかあるので、それを考えてみたい。

まず、なんと言ってもダウン症をどう捉えるかという視点から見なければならない。日本産科婦人科学会はこれまで出生前診断 (羊水検査) と着床前診断 (PGD) の間に大きな乖離が見られることをそのままにして今回のNIPTを進めている。これに対し、わたしは日産婦理事長やその他の方々にメールで意見を送ったし、また、公開シンポジウムには日帰りで行って意見を述べた。しかしその雰囲気は、それを行うために消化試合を行っているようなものと感じた。

PGDは稀な遺伝病を対象としているが、生殖医療で最も多い遺伝子的 (染色体) 疾患はトリソミーで、中でもダウン症は生まれてくる可能性が高いため、最も議論になることが多い。よってPGDのガイドラインが厳しいのは、このダウン症との関連によると思われる。

ところが出生前診断のガイドラインでは、その適応項目に「高齢妊婦」があり、これはまさにダウン症を予想しており、堂々とダウン症を診断してよいことになっている。ところがPGDのガイドラインでは、妊娠しても致死的なトリソミーやダウン症を診断することは禁じられている。日産婦は「PGDでは疾患が見つかった胚は廃棄し、産む気持ちはないが、羊水検査やNIPTはすでに妊娠していて産む気持ちはある」という。詭弁である。羊水検査やNIPTでも、英国のデータでは、ダウン症が見つかったら95%以上が中絶するという。また英国ではカウンセリング体制が整っているため、障害児を生んでもその後のフォローは十分という。ここで言うカウンセリングとは、遺伝カウンセリングだけではなく、クライアントの生活環境や経済的問題、心理的負担を解決するための社会的、心理学的カウンセリングを指している。むしろこちらのほうが重要と思う。今回のNIPTでは、小児科と産婦人科の遺伝カウンセラーが必要と謳っているが、それは単に遺伝に関する情報提供者という意味であって、本来の意味のカウンセリングとは異なる。むしろ心理カウンセラーのほうが重要と思う。

次に、NIPTでは臨床研究として実施施設を限定して行うようであるが、研究ならば無料で行うべきである。20万円以上も取るのはおかしい。

また、検査会社はアメリカという。施設によっては中国も可能性があるという。3,000人の日本人の妊婦さんの血液が外国に渡れば何が起こるかわからない。実に日本人の遺伝子データがそっくり知られてしまうことにもなりかねない。その危険性は世論調査の信頼性をみれば、統計処理を行えば可能であると十分理解できる。その結果、創薬関係や、生命保険、果ては日本人の体の特徴を基にした安全保障上の問題など、危惧される点はいくつもあるだろう。

以上の様にNIPTには多くの問題点があるが、日産婦は公開シンポジウムやパブリックコメント募集などで意見を聞いたと説明するものの、本来の問題点であるダウン症をどう捉えるかという点については、曖昧なまま進めているのが現状である。この際、まず、今までの出生前診断、トリプルマーカー試験、羊水検査やPGDとの整合性を整え、それに則って、その後、NIPTを進めるべきではないかと思う。

## 一年を振り返って

### 医局

2012年は真新しい多目的室での新年会で始まった。2011年6月に無事新病院への移転を終え、7月から新しい病院での診療が開始されてから、より使いやすくするための診察室などの改装も一段落し、少しぎこちなかった私たちの動きもスムーズになってきたころだったように思う。

毎日初診の患者が絶えず、手術数も徐々に増加し、私に関わる患者さんの数も増えた。プレッシャーも増えていったが、いつも院長がチェックしてくださっていたので安心して診療することができた。

院長の出張も頻回にあり、外来診療、採卵、胚移植を一人で任されることも増えた。任せただけなのがうれしい反面、初めのころはプレッシャーと緊張で家に帰ると何もできないくらい疲れる日もあった。しかし、セント・ルカのいいところは、職員全員がともに頑張ってお互い支えあい、助け合えるところである。全員の歯車がきれいにかみ合うと、いくら外来数が多くても何とかこなしてしまうのである。院長が毎週ミーティングに時間をかけていらしたのはこのためもあったのだと、あらためて実感することになった。

2012年8月に大阪であった第30回日本受精着床学会総会・学術講演会が終わると、病院の中は来年度の院長が大会長となる第31回日本受精着床学会総会・学術講演会に向けて走りだした。学会を開催するために考えなくてはならないことがたくさんあり、いままで表面しか見ずに参加していた学会の裏側に、こんなに多くの決まりごとがあったことを再認識した。正直なところ大きな学会にはあまり参加していなかったため、諸先生方の所属や研究内容があまり把握できておらず、勉強不足を後悔している。あと数ヵ月あるので学会の準備を頑張っていきたいと思っている。

同じく2012年の8月には、結成して5年になるセント・ルカリコーダー部としての活動で忘れられない出来事があった。鹿児島の中学期時代の同級生が運営しているリコーダーアンサンブルのフラウト・ドルチェ・アンサンブルと大分リコーダークラブ、そして私たちセント・ルカリコーダー部のメンバーで、ルーテル大分教会でチャリティーコンサートを開催させていただいたことである。

常々、仕事だけではなく芸術や音楽など人生を豊かにすることも良い医療者に必要であると、私たちに機会を与えてくださる院長のご配慮で、当院の多目的室で練習とリハーサルを行った。30年ぶりに友人とリコーダーの合奏ができ、音楽漬けの2日間がとても楽しかった。セント・ルカリコーダー部のメンバーも日々の仕事が忙しい中、休日返上で練習に参加してくれて感謝している。

来年度はいよいよ第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の開催が控えている。また、私自身も十数年ぶりの学会発表もあり、毎日時間に追われている。しかし、妊娠を望んで通院される患者さんたちに最良の医療を提供できるように、まず日々の診療を頑張らなくてはと考えている。

最後に、仕事をする私を支えてくれる家族や友人、周りの人たちに感謝しつつ、新年度もまた、全力疾走で走り抜きたいと思う。

河邊 史子

## 一年を振り返って

### 心理専門相談室

2011年7月の新病院への引越し、2012年6月の開院20周年を経て、セント・ルカ産婦人科は昨年、21年目の一歩を踏み出しました。心理相談室も2001年から12年の歴史を刻み、4月からまた新しい歩みを始めようとしています。

この1年間は、生殖医療に対する報道が大変多く、特に「卵子の老化」についてテレビ放送などで盛んに取り上げられたこともあり、生殖医療に対する世の中の関心が高まってきたと実感される年となりました。インターネットからの情報も合わせると、その情報量の多さは過剰とも思われます。それに伴って不妊や不妊治療、体外受精が特別珍しいものではなく、一見「マイノリティとしての孤独感」は一昔前に比べて、随分軽くなっているようにも見えます。

しかしながら、高齢の芸能人の出産、母体血による胎児の出生前診断、有名人の卵子提供による出産などの様々な報道が入り混じり、患者さんによっては、多くの情報に触れることによって不安が増したり、迷いが生じたりしている場合があるのも事実です。

昨年、当院では「出生前診断」や「非配偶者間生殖医療」についての質問紙調査を行いました。生殖医療についての話題や報道に対する患者さん方の関心は高く、非常に高い回収率を得ましたが、どちらのテーマに対しても、何が良いのか、何を選択したいのかという明確な基準を持っている患者さんは本当に少なく、多くの患者さんは判断に困っているという実態が伝わってきました。社会も患者さん達も生殖医療の在り方や方向性が未だ定まらない中で進むべき方向性を模索している段階だと思いました。

日々患者さんと接する中で感じられることですが、患者さん方は私達医療者の意見によって影響を受けることも多いように思います。私達自身がこれらの問題と真摯に向き合い、考えていくことが必要だと考えられます。

当院も加盟している JISART では、卵子提供で生まれた子どもたちの家族に対するフォローアップが今年から本格的に始まりました。私もフォローアップ部門会長として参加させていただいていますが、今年には相談体制を整えることに加えて、対象となる年齢の子どもをもつ家族に、生まれて来た子どもたちの心身の発達、親子関係、家族関係、告知の状況などについての調査を行いました。このような地道な努力がこの医療の正しい方向性を示すきっかけとなり、当事者の方々のこれからの幸せな家庭生活に結びついてくれることを願っています。

振り返って当院の心理相談室について考えてみますと、最近の傾向として自発来談の患者さんや再来患者さんが増えてきたことが挙げられると思います。何となくあまり構えずに気楽に利用してくださる方が増えてきたように感じています。

心理相談室ができてからずっとカウンセリングの垣根を低くすることが課題でした。予約システムから予約ができるようになったことも理由の一つではないかと考えていますが、

「新患のお話やポスターなどで相談室があることは知っていました」「前の病院でセント・ルカには心理相談室があると教えてもらいました」など、心理相談室の存在が患者さん方に周知され、カウンセリングが特別な人が行くものではなくなったのではないかと思い、うれしい変化として受け止めています。患者さんの悩みは本当に様々です。これからも一人ひとりの患者さんに寄り添った支援ができる相談室でありたいと思っています。

また、今年の8月には別府市で「これからの生殖医療—生まれてくるこどものために—」をメインテーマに、院長が大会長として「第31回日本受精着床学会総会・学術講演会」を開催します。この大会に向けてスタッフ一同準備を進めてきましたが、私もスタッフの一人として、その準備に参加させていただいています。院長の理念が詰まった大会に心理士として少しでも貢献できるよう、スタッフの皆さんと一緒に最後までがんばっていきたいと思います。

この12年間自分の力不足に悩みながらも心理相談室を続けてこられたのも、院長はじめ、スタッフの皆様のご協力の賜と深く感謝しております。

今後とも患者さんと共にある「心理相談室」をどうぞよろしくお願いいたします。

上野 桂子





## 一年を振り返って

### 看護部

2012年の春、大分駅が完全高架化され、駅の南口は文化・経済の地として新しく生まれ変わり、新たな歴史を築き始めました。その大分駅南口（上野の森口）近くに移転したセント・ルカ産婦人科も、この一年を振り返ってみると、さらに飛躍した一年であったような気がします。

当院では、2005年に「ISO9001」を取得し、施設全体で取り組み、2008年からは院内活動として引き続き実践しています。このISOを念頭に置くと、基本方針として医療の現場で働く私達にとって、常に「患者さんに信頼される質の高い看護」を提供していかなければなりません。その為には、患者さんに満足される安全で安心な看護を提供すること（看護実践）、スタッフ一人ひとりが豊かな人間性と高度な専門知識・技術を持ち、適切に判断し、実践できること（人材育成・教育）、また、他部門と協働し、患者さんを中心とするチーム医療を推進していく必要性（チーム医療）を感じています。

「安全で安心」という言葉を聞くと、看護部では第一に「ヒヤリ・ハット」安全管理対策について頭に浮かびます。この一年も取り組みを行ってきました。

看護部では、ミスの大小に関わらず、「ハットメモ」として毎朝のナースミーティングで取り上げ、その後、毎週火曜日の午後行われる全体ミーティングで報告し、対策・是正を検討し、半年ごとに全体のマネジメントレビューで再確認しています。

ISOを継続し、月日が過ぎるごとに、安全な医療を実践するためには、ミスを隠さずに報告できる体制を作り、ミスを個人の問題として捉えるのではなく、系統的・組織的に原因や対策を考えていくこと、ISOの基準に則ったリスク管理を継続して行っていく必要性が重要だと日々感じます。ISO9001を医療の現場に取り込み、看護の役割を自らに問い続け、多くの患者さんに信頼される質の高い医療・看護を今後も提供していきたいと思いません。

次に「人材育成・教育」として、看護部では、患者さんの会のサポートにも力を注いだ一年でした。

「ガーネットサークル」（治療体験者を招いての患者会）は3ヵ月に一度開催し、その時々でテーマを決めて、自由なお話を楽しんでいただいています。

「オリーブの会」（40歳以上の体外受精を行っている方を対象とした患者会）は毎月開催しています。

2012年は当院の特徴である、この二つの患者会から学会発表をさせていただきました。特に、オリーブの会からは「ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会」を開催しての発表となりました。結婚＝妊娠・出産がまだまだ当たり前の世の中ですが、結婚年齢が上がり、卵巣の老化も進み、妊娠に至らない方達も多く、当院としては、その方達との関わりも大切にし、「心のサポートの充実」をこれからも治療の中心であることを忘れないようにしたいと思っています。

また、近年、生殖補助医療と言えれば必ず話題になるのが受精卵の着床前診断 (PGD) と、非配偶者間生殖医療で生まれた子どもたちです。当院でも、PGD については、患者さんとの関わりの中で必要性を感じ、ラボスタッフが取り組みをしています。

生殖医療の進歩により、さまざまな問題が生じています。非配偶者間生殖医療で生まれた子どもたちの問題はやはり大きいと思います。生殖補助医療に携わる一人として、治療を受けた患者さんから生まれた児への関わりへと、次の世代にまで目を向けて行く事は避けて通れないと思います。

2013年8月には、院長が第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の大会長を務めることとなりました。自分達には予想もつかないほどの大きな学会です。この学会でも看護部からは非配偶者間生殖医療について、そして卵子の老化についてなど、医療従事者が思ってもみないような誤解や間違った情報が伝わっている現状を捉え、多くの女性に正確な情報を伝え、理解してもらえるような演題を発表していきたいと考えています。

学会に関しては、院長の指示のもと、職員一丸となって取り組み、学会に参加していただいた方に「はるばる別府まで来たけれど、来て良かった、楽しかった」と言って頂けるような素晴らしいものにしたいと思っています。

つい先日、大分駅上野の森口のシンボルロードに市民約2,600人が集まり、市民植樹祭が行われました。エノキ・サクラ・エンドウが植えられたそうです。来年3月にはこのシンボルロードが完成し、緑豊かな土地になることは言うまでもありません。

2013年もこのシンボルロードに負けないよう「チーム医療」で日々の業務をこなし、患者さんの心に寄り添った看護をしていきたいと思っています。

後藤 裕子



## 一年を振り返って

### 研究室・培養室

今年も一年を振り返る時期がやってきました。毎年この時期は、前年の研究発表や研究室の目標の達成度を振り返り、反省や今後の目標を明確にしています。

今年は第31回日本受精着床学会総会・学術講演会を大分県別府市で開催することとなり、スタッフ一同、鋭意準備を整えている渦中にあります。これまでも、生殖補助医療という仕事は、チーム医療であることを意識して仕事をしていましたが、外部の方々から、こんなにも支えられて私たちの仕事が成り立っているのかということを感じています。大分大学名誉教授 宮川勇生先生、大分大学医学部附属病院産科婦人科学教室 教授 檜原久司先生、准教授 河野康志先生には、サイエンティフィックアドバイザーとして、学会プログラムを考える際にご指導いただきました。その中で、セント・ルカ産婦人科研究室のこれまでの方向性などをご考慮いただく場面があり、常に見守って頂いていたことに、今更ながら感謝の気持ちでいっぱいになりました。

業者の方々からも、損得を超えた気持ちで支えられていることを痛感させられる出来事がありました。ある大手検査会社の大分所長さんに、協賛や広告のお願いをすると、関連会社にまで声をかけていただき「この学会を成功させるために、奔走しています！」とおっしゃって下さいました。広告で利益を得るためだけではなく、セント・ルカとの付き合いのためでもなく、「学会を成功させるために」という言葉に、ハッとさせられました。私たちの言葉にならない目標を汲み取り、活動して下さるそのお言葉に、常日頃からこのような姿勢で支えられていたことに気がつきました。本学術講演会の最終的な目標は、院長が学術講演会テーマに掲げました「生まれてくるこどものために」ではないかと思います。全国の医師、看護師、培養士、心理士、事務、その他生殖補助医療に携わる方々が、生まれてくる子どものために研究発表をおこない、活発な意見を交わす、そのようなすばらしい8月を迎えたいと思っています。

このように、今年一年の活動は未だ区切りを得ていないので、振り返ることが困難な状態にあります。研究についても、数年にわたって検討してきた結果が実を結ぶ一歩手前にある状態です。ARTとインプリンティングの関係や、抗がん剤の配偶子への影響など、次世代を見据えた研究は、まさに「生まれてくるこどものために」現在も地道に研究を行っています。これからの1年は研究活動についても正念場です。来年は、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会抄録集表紙写真の虹のように、晴々とこの時期を迎えたいと思います。

大津 英子

## 一年を振り返って

### 受付

この一年を振り返ってみると、とても多忙な一年だったと思います。周りの方のご協力のおかげで何とか乗り切れたというところです。

今年の8月に、別府市で第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が開催されます。私はまず、その準備として2つの学会に視察に行かせていただきました。

ひとつめは、2012年8月の第30回日本受精着床学会総会・学術講演会（大阪）でした。私にとって初めての大きな学会参加で、スケールの大きさ、参加者の多さに圧倒され、別府での開催時は「私達が中心になってやらなければいけない」という、大きなプレッシャーに押し潰されそうな思いで参加した学会でした。事前登録という事もあり、受付には10台の機械が設置されていました。国際学会併催ということもあり、ポスター・ブース展示会場も広く、圧倒させられました。当日は、受付担当の方をお願いして、学会運営に関して、受付部門のプラス面とマイナス面のお話を伺うことができました。

次に、2012年11月、第57回日本生殖医学会学術講演会・総会（長崎）に参加させていただきました。この学会では、参加スタッフで手分けをして、各セッション会場の参加人数や椅子の設置数等を調べ、次回に備えられるよう、各会場や受付スタッフの動きなど、入念に視察を行いました。

2012年10月から各部署の担当者が集まり受着会議を開いています。今まさに準備の真っ只中です。スタッフ一丸となって第31回日本受精着床学会総会・学術講演会を成功させたいと思います。

JISARTの活動として、事務教育委員に選ばれました。ミオ・ファティリティ・クリニックの東さんをはじめ、IVF なんばクリニックの稲垣さん、梅ヶ丘産婦人科の米沢さん、神谷レディースクリニックの戸澤さん、広島 HART クリニックの山西さん、そして私の計5名で、今後の事務部門はどうあるべきかを考えていきます。生殖補助医療の事務部門として私達はどうあるべきか、生殖補助医療にふさわしい事務部門になるために、私たちはどうしたらよいかを検討し、600を超える生殖補助医療を行っている施設の中で、事務部門も JISART 加盟施設が日本のトップレベルであるよう、私も委員会の一員として足を引っ張らないように、今後も頑張っていきたいと思っています。

今年2月に当院のCS委員が患者さん100名に質問紙調査を行いました。受付スタッフの動作・言動に関して、多くの患者さんから支持を頂き安堵しました。しかし、待ち時間に関しては、難しい現実を突き付けられました。調査の結果、40%弱の患者さんが2時間

以上の待ち時間があるという結果が出たのです。

新築移転と同時に、待ち時間解消の目玉として「受付予約システム」を導入しました。スタッフにとっては、来院患者さんの予約内容をより早く把握できるようになり、業務はスムーズになりました。しかし、患者さんの待ち時間は、予約システム導入前の待ち時間と比較して、変化はなかったのです。

当院では、午前の外来診療中に、採卵・胚移植・手術が同時進行で行われますので、手術等の状況により待ち時間短縮は難しく、日々頭を悩ませているところですが、なんとか患者さんの待ち時間軽減を実現するために、これからも受付と看護部との連携を図り、少しでも外来がスムーズに回るようにしていきたいと思います。

当院の院全体目標は『患者さんの夢の実現の為、世界トップレベルの知識と技術と心を提供する』です。心を提供することはとても難しいことですが、ひとりでも多くの患者さんの心に寄り添えるよう、昨年よりも一回りも二回りも大きくなれるよう、これからも初心を忘れず日々努力していきたいと思います。皆様、ご指導よろしくお願い致します。

最後に、2012年度の不妊治療助成金の総件数が出ましたのでご報告いたします。

	人数	申請回数	助成金額
大分県	161	251	38,110,200
大分市	198	321	61,026,300
他県	4	8	1,200,000
県と市両方	44	52	5,215,200
大分市以外	7	9	532,800
市町村のみ	8	9	983,800
合計	422	650	107,068,300

越名 久美



## 一年を振り返って

### 情報処理室

今年の桜はとても早く、梅・桃・桜と同時にお花見ができ、豪華絢爛な春を謳歌しています。そして、この桜の季節が終われば、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の準備もいよいよ佳境に入ります。

2月26日よりホームページ上で演題登録が始まりました。全国から続々と演題の登録が行われる中、サイエンティフィックアドバイザーの大分大学名誉教授 宮川勇生先生、大分大学教授 檜原久司先生、大分大学准教授 河野康志先生にご意見をいただき、院長の指揮の下、職員全員で力を合わせ、全国の先生方をお迎えできるように準備を進めています。

さて、この一年を振り返ると、仕事、仲間、家族と、3つの大きな愛に支えられた一年でした。

仕事では、慶應義塾大学と共同研究を行っている厚生労働省科学研究費生育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」に携わらせていただいて3年目を迎えました。初年度に行った2008年度に授かった児のうち、同意を得られた3,000人を超える児の、3歳半健診時の調査を行います。対象患者への調査用紙配布も終了し、4月には2009年の10月に生まれた児の健診も終了しますので、6月頃にはすべての調査用紙回収が終了するのではないかと思います。この調査に関しては、国内初の大規模調査ということもあり、多くの先生方のご理解の下、JISART加盟施設にご協力いただき、皆が手弁当で今後の生殖補助医療のために、忙しい合間を縫ってご協力くださいました。

そして、セント・ルカ産婦人科2013年のビッグニュースとなる第31回日本受精着床学会総会・学術講演会では、初めての学会事務幹事という大役で学会運営に携わらせていただき、極度の緊張と責任を感じています。煩雑で複雑なたくさんの事務作業に向かい、時には逃げ出したくなる気持ちに襲われる時もありますが、著名な先生方、業者の皆さんから学会でお会いするたびに「なんでも協力するから遠慮なく相談してください」と、たくさんのお声かけをいただきました。学会幹事経験をされた先生に、わからないところなどをお尋ねしたときも、診療でお忙しい中とても丁寧に教えてくださり、みなさんの優しさに「できるから大丈夫だよ、頑張ろう」というおまじないを心にかけていただいたような気がします。

仲間では、昨年末に家族が病床に倒れ、私自身大きな環境の変化に立ち向かわなくてはならない事となり、情報処理室スタッフには大きな負担をかけてしまいました。しかし、

平松が部署内業務や院長秘書業務をメインに、山路が受精着床学会の膨大で煩雑な事務処理をメインとして、しっかり支えてくれています。この二人がいるからこそ、安心して児の調査の業務や受精着床学会関連業務に邁進することができます。

経験しなくてはわからない事が多いという事を、年を経るにつけ感じる事が多くなりました。家族の大病を経験し、仕事・仲間という立派な支柱と、その礎に家族という大きな土台に支えられ、友人からの「なんでも言ってね、協力するからね」という言葉の重さ・力強さ、協力を依頼する・しないは別として、言っていただけることで自分の中に生まれる力の大きさに驚きました。「嬉しい気持ち・喜び=Power」になると知ってはいましたが、身を以て経験し、前に進んで生きていくためにポジティブなパワーは必要不可欠だと教えていただきました。

Windows7 から Windows8 の時代へと移りましたが、当院の PC は未だメイン OS は WindowsXP です。なにより安定している事への信頼感で、できるならば永遠に OS の変更はしたくないと思っていますが、そういうわけにもいきません。

端末もそうですが、サーバーも永久品ではありません。2013年2月に情報処理室の悩みの種であった、サーバーの入れ替え作業が終了しました。以前のサーバーは院内 DB 管理だけで、ファイルサーバーは別建ての HD 使用と、運用方法としては問題がありました。しかし、今回のサーバー入れ替えにより、院内 DB とファイルサーバーを同一サーバー上で管理できるようになりました。さて、残るは画像サーバーです。セント・ルカ産婦人科 21年の歴史を大切に保管するためにも、堅牢で管理のしやすい画像サーバー導入に向け情報収集を行いたいと思います。

2013年度後半には SarahBase のバージョンアップに向けて始動予定です。院長が開院当初より全国に向けて発信した、この業界だからこそ DB 管理が大切という思いが全国で大きく花開き、各施設において特色のある DB 開発を行っているようです。秋からは素晴らしい DB 管理を行っている施設へ見学に行かせていただき、DB 管理はやはりセント・ルカ産婦人科が一番素晴らしいと言っただけのようなものを開発できるように院内 IT 委員会でディスカッションを重ね、スタッフと SE の良い架け橋になれるよう頑張りたいと考えています。

情報処理室は例年、春から初夏にかけて、年報作成と開院記念行事であるセント・ルカセミナー準備のために忙しい毎日を送っていますが、今年は年報作成と受精着床学会の準備という、初めての大きな体験に大きな期待と不安を抱きつつ、関係者の皆様にご教示いただきながら、一步一步3人で力を合わせスキルアップに努めたいと思います。

工藤 由香

## 一年を振り返って

### 厨房

大分駅上野の森口のしだれ桜も花を付け、春本番はもうすぐそこです。

今年は、ノロウイルスやインフルエンザが全国各地で猛威を振るい、連日のように何人もの感染者が出たと報道されていました。

このような状況を耳にする度に、この日本列島はどうなってしまうのかと恐ろしくなった記憶が思い出されます。

患者さんにお食事を提供する仕事に携わっている者として、様々な場面で、多方向へアンテナを張り巡らせ、少しでも早く食中毒の菌の経路を防げるよう、努めなければなりません。

そして、自らも保菌者にならないように、常日頃から衛生管理に十分気を付けなければならぬと痛感しています。

話は変わりますが、CSの一環として、食事に関して、入院患者さんからの声を退院時にアンケートでいただいているのですが、その中の一文を紹介します。

「手術前には身体の中をすっからかんにするのですが、術後の完全にリセットされた状態で頂いたお粥の甘さは、忘れません。ルカほど病室、入院食という言葉が似合わない病院もないですよね！」

「ヤッター！私たちの目指す“病院らしくない病院”というスタンスを感じとってくれている。通じていたのだ。」と思い、感動しました。

入院中は何かと不安になりがちな患者さん方の気持ちを、私たちが心を込めて手作りのお食事で和ませてあげられるよう、「美味しいご飯のおかげで、メキメキ元気になれました」というお言葉をまた聞けるように日々頑張ります。

矢野 千恵美







# 診療統計



# 外来患者および妊娠結果の内訳

(2012.12.31 現在)

## 1. 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3) ~ 本年(2012.12.31)までの外来患者数

**22,060 人**

(内訳) 男性 7,900 人 (35.8%) (平均年齢 33.9 才)

正常 4,067 人 (51.5%) 未検査・未診断 306 人 (3.9%)

異常 3,527 人 (44.6%)

女性 14,160 人 (64.2%) (平均年齢 31.6 才)

・ 拳児希望の女性 10,935 人 (77.2%) (平均年齢 31.6±4.6 才)

・ 妊娠件数 **6,572 件** (平均年齢 32.2±4.3 才)

・ 妊娠に至らなかった女性 5,318 人

2) 妊娠率(患者あたり) **51.4%** { (10,935-5,318) / 10,935 }

3) 治療を途中で諦めた女性 4,990 人 (45.6%)

A) 諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など) 1,119 人 (10.2%)

B) いつの間にか諦めた人 3,871 人 (35.4%)

4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり) **79.5%** { (10,935-5,318) / 10,935-(4,990-1,119) }

5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり) **94.5%** { (10,935-5,318) / (10,935-4,990) }

## 2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	4,786 例	(72.82%)
流産	1,475 例	(22.44%)
異所性妊娠(子宮外妊娠)	185 例	(2.82%)
胞状奇胎	14 例	(0.21%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	111 例	(1.69%)
計	6,572 例	(100%)

## 3. 出産結果 (他院へ紹介済の 4,786 例中、妊娠結果が判明している 4,401 例について)

### 1) 妊娠結果

満期産	3,818 例	(86.75%)
満期産+死産*	4 例	(0.09%)
満期産+異所性妊娠*	1 例	(0.03%)
早産	430 例	(9.77%)
早産+死産*	9 例	(0.20%)
過期産	17 例	(0.39%)
死産	49 例	(1.11%)
流産	55 例	(1.25%)
流産+死産*	1 例	(0.03%)
奇形中絶	12 例	(0.27%)
人工妊娠中絶	5 例	(0.11%)
計	4,401 例	(100%)

\* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

## 2) 多胎妊娠について

単胎	4,048 例	(92.0%)	4,048 児
双胎	337 例	(7.7%)	674 児
品胎	16 例	(0.3%)	48 児
計	4,401 例	(100%)	4,770 児

## 3) 出生児の状態

正常	3,711 児	(77.8%)
低体重児	763 児	(16.0%)
異常(死産等含む)	296 児	(6.2%)
(うち奇形を含む主な異常)	(172 児)	(3.6%)
計	4,770 児	(100%)

## 4. 妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	2,782 例	(42.3%)
IVF-ET(体外受精)	674 例	(10.26%)
MF-ET(顕微授精)	910 例	(13.85%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	1,155 例	(17.57%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.58%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.07%)
ART(生殖補助医療)以外	3,790 例	(57.7%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	771 例	(11.73%)
hMG+hCG, Gn-RHa	724 例	(11.01%)
クロミフェン	452 例	(6.88%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	738 例	(11.23%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	510 例	(7.76%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	433 例	(6.59%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	9 例	(0.14%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.23%)
その他	138 例	(2.10%)
計	6,572 例	(100%)

(2012/12/31 セント・ルカ産婦人科)

外来・入院数 (2012.1.1~2012.12.31)

	入 院	外 来
1 月	121	1,692
2 月	158	1,840
3 月	149	1,988
4 月	176	1,883
5 月	128	1,919
6 月	160	2,042
7 月	139	1,733
8 月	163	1,914
9 月	141	1,983
10 月	166	2,249
11 月	171	2,176
12 月	158	2,039
合計	1,830	23,458

# 入院数 (2012.1.1~2012.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	11	13	17	19	19	22	19	27	17	12	10	14	200
腹腔鏡下 子宮筋腫核出術	4	4	0	1	1	3	1	0	3	1	3	1	22
腹腔鏡下 卵巣腫瘍核出術	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	0	0	0	0	0	2	2	2	1	0	0	3	10
子宮内容除去術 (流産のため)	5	6	14	7	8	6	4	10	6	6	12	12	96
子宮筋腫核出術	1	5	2	4	2	1	0	2	1	3	4	0	25
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	1	1	3	1	1	0	2	1	3	1	1	1	16
子宮内膜搔爬術	1	2	1	0	0	2	1	0	2	2	1	6	18
卵胞穿刺術	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	11
減胎手術	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	0	2	1	1	0	2	1	0	3	1	2	15
合計	29	33	39	33	33	36	32	43	33	28	36	40	415

安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	1	0	1	2	0	0	0	1	1	0	1	0	7
切迫流産安静	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4
その他	0	0	0	2	1	1	2	0	1	2	1	0	10
合計	2	0	1	6	1	1	2	2	2	2	2	0	21

体外受精入院													
採卵	42	63	49	59	44	53	46	49	44	57	63	49	618
胚移植	17	24	23	27	19	21	22	20	22	27	32	18	272
凍結胚移植	31	38	37	51	31	49	37	49	40	52	38	51	504
GIFT,ZIFT,TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	90	125	109	137	94	123	105	118	106	136	133	118	1,394

入院総計	121	158	149	176	128	160	139	163	141	166	171	158	1,830
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

# 妊娠数 (1992.6.3~1997.12.31)

	周期	1992	1993	1994	1995	1996	1997
体外受精 胚移植	採卵	63	213	266	270	279	329
	移植	50	153	200	221	247	276
	妊娠	2 ( 4.0 %)	23 ( 15.0 %)	51 ( 25.5 %)	61 ( 27.6 %)	55 ( 22.3 %)	54 ( 19.6 %)
顕微授精 胚移植	採卵	0	33	167	246	239	224
	移植	0	20	130	210	222	192
	妊娠	0 ( 0.0 %)	1 ( 5.0 %)	16 ( 12.3 %)	36 ( 17.1 %)	36 ( 16.2 %)	35 ( 18.2 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	0	5	7	20	52	90
	移植	0	5	7	19	52	88
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	1 ( 14.3 %)	0 ( 0.0 %)	6 ( 11.5 %)	15 ( 17.0 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	2	43	30	17	8	15
	移植	1	42	30	17	8	15
	妊娠	0 ( 0.0 %)	10 ( 23.8 %)	10 ( 33.3 %)	5 ( 29.4 %)	4 ( 50.0 %)	4 ( 26.7 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	4	10	3
	移植	0	0	0	4	10	3
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	2 ( 20.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	7	2	9	2	2
	移植	0	6	2	9	2	2
	妊娠	0 ( 0.0 %)	1 ( 16.7 %)	0 ( 0.0 %)	1 ( 11.1 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	1	8	0	1
	移植	0	1	1	8	0	1
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	3 ( 37.5 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	1
	移植	0	0	0	0	0	1
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
小計	採卵	65	297	466	554	538	574
	凍結融 解周期	0	5	7	20	52	91
	移植	51	227	370	488	541	578
	妊娠	2 ( 3.9 %)	35 ( 15.4 %)	78 ( 21.1 %)	106 ( 21.7 %)	103 ( 19.0 %)	108 ( 18.7 %)
ART*以外の妊娠数		96	215	214	247	203	177
妊娠総数		98	250	292	353	306	285

\*生殖補助医療

# 妊娠数 (1998.1.1～2003.12.31)

	周期	1998	1999	2000	2001	2002	2003
体外受精 胚移植	採卵	282	253	154	119	172	139
	移植	225	224	121	93	123	100
	妊娠	48 ( 21.3 %)	62 ( 27.7 %)	37 ( 30.6 %)	41 ( 44.1 %)	41 ( 33.3 %)	36 ( 36.0 %)
顕微授精 胚移植	採卵	265	342	317	377	344	420
	移植	227	276	238	283	215	279
	妊娠	31 ( 13.7 %)	34 ( 12.3 %)	50 ( 21.0 %)	63 ( 22.3 %)	45 ( 20.9 %)	65 ( 23.3 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	122	107	170	195	255	238
	移植	121	93	153	140	171	185
	妊娠	29 ( 24.0 %)	23 ( 24.7 %)	32 ( 20.9 %)	48 ( 34.3 %)	48 ( 28.1 %)	37 ( 20.0 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	19	6	9	1	1	1
	移植	19	6	9	1	1	1
	妊娠	2 ( 10.5 %)	1 ( 16.7 %)	2 ( 22.2 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	11	4	10	1	0	0
	移植	11	4	10	1	0	0
	妊娠	2 ( 18.2 %)	1 ( 25.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	5	0	1	0	0	0
	移植	5	0	1	0	0	0
	妊娠	2 ( 40.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	2	0	0	0	0	0
	移植	2	0	0	0	0	0
	妊娠	1 ( 50.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
小計	採卵	582	605	491	498	517	560
	凍結融 解周期	124	107	170	195	255	238
	移植	610	603	532	518	510	565
	妊娠	115 ( 18.9 %)	121 ( 20.1 %)	121 ( 22.7 %)	152 ( 29.3 %)	134 ( 26.3 %)	138 ( 24.4 %)
ART以外の妊娠数	177	153	169	169	168	157	
妊娠総数	292	274	290	321	302	295	

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

# 妊娠数 (2004.1.1~2008.12.31)

	周期	2004	2005	2006	2007	2008
体外受精 胚移植	採卵	103	62	98	155	111
	移植	69	38	48	89	58
	妊娠	25 ( 36.2 %)	17 ( 44.7 %)	20 ( 41.7 %)	36 ( 40.4 %)	20 ( 34.5 %)
顕微授精 胚移植	採卵	436	451	414	424	386
	移植	328	297	267	237	208
	妊娠	72 ( 22.0 %)	74 ( 24.9 %)	74 ( 27.7 %)	58 ( 24.5 %)	37 ( 17.8 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	218	249	251	375	423
	移植	187	234	240	353	396
	妊娠	47 ( 25.1 %)	54 ( 23.1 %)	57 ( 23.8 %)	76 ( 21.5 %)	80 ( 20.2 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	6	18	9	24	28
	移植	5	13	6	21	24
	妊娠	0 ( 0.0 %)	6 ( 46.2 %)	2 ( 33.3 %)	7 ( 33.3 %)	8 ( 33.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	0
	移植	1	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	1	0
	移植	0	0	0	1	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	0
	移植	1	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	2	6	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
小計	採卵	543	519	512	580	497
	凍結融 解周期	224	267	260	399	451
	移植	591	582	561	701	686
	妊娠	144 ( 24.4 %)	151 ( 25.9 %)	153 ( 27.3 %)	177 ( 25.2 %)	145 ( 21.1 %)
ART*以外の妊娠数	167	205	181	189	196	
妊娠総数	311	356	334	366	341	

\*生殖補助医療

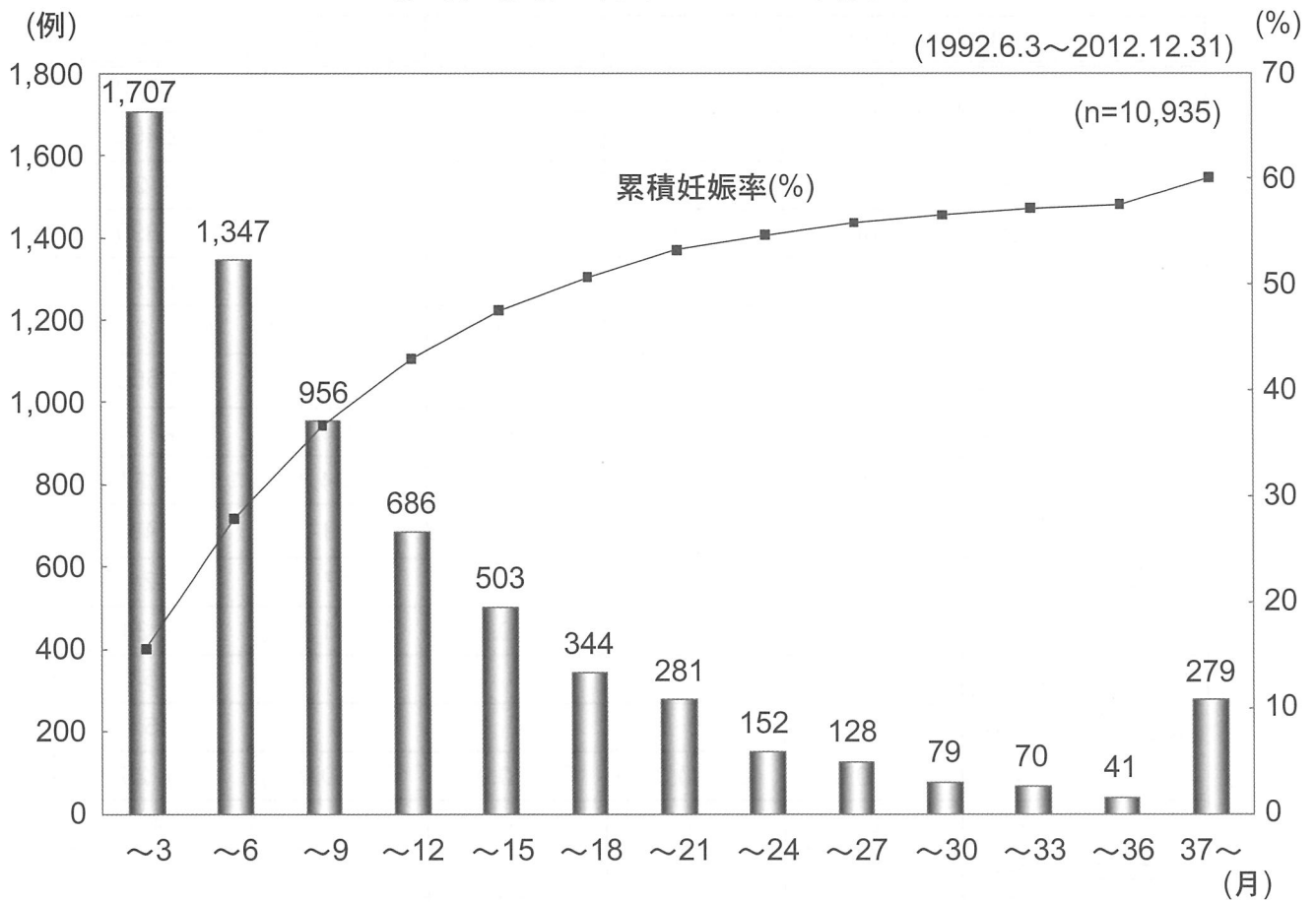


# 妊娠数 (2009.1.1~2012.12.31)

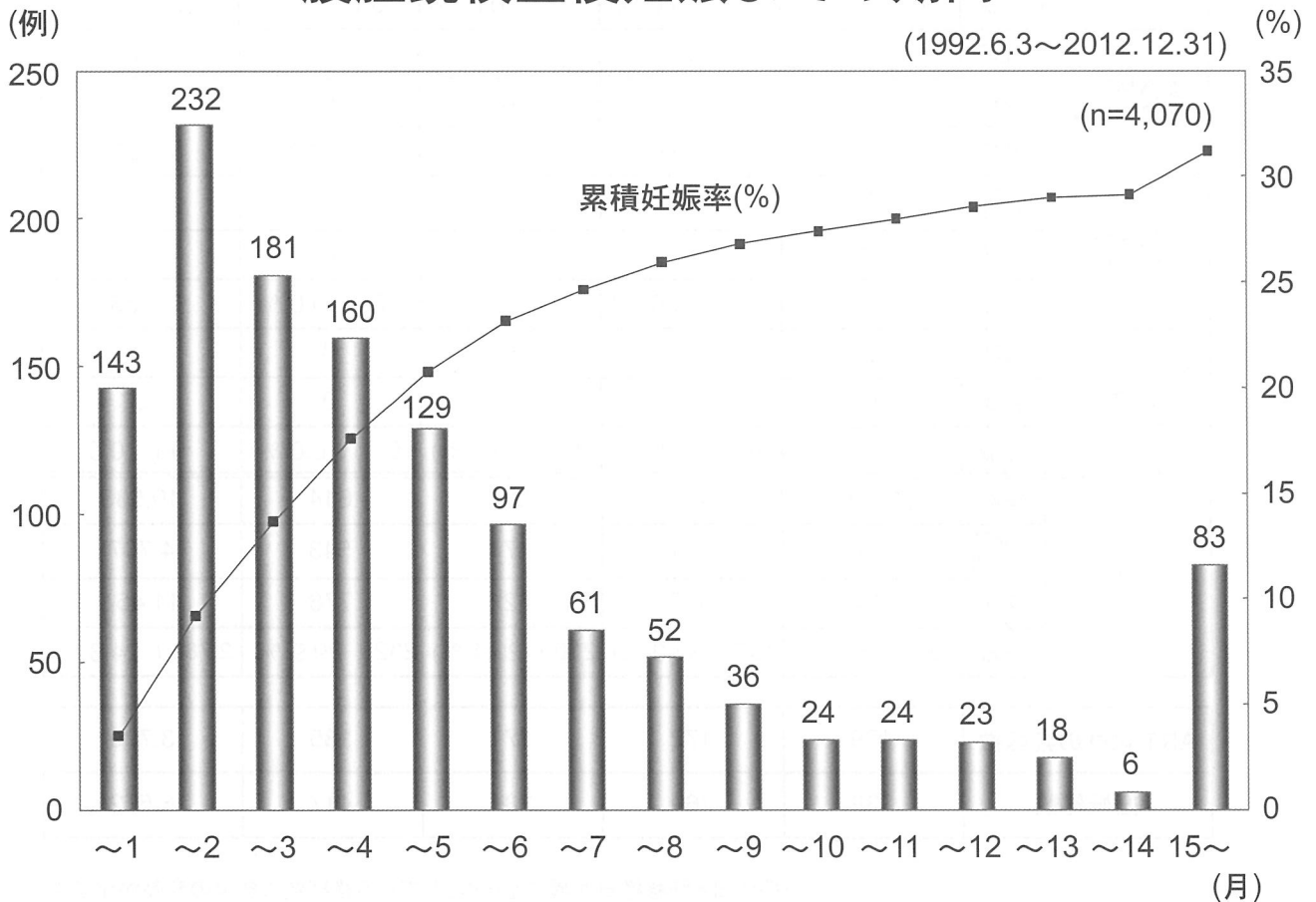
	周期	2009	2010	2011	2012	合計
体外受精 胚移植	採卵	90	77	61	104	3,400
	移植	34	22	23	42	2,456
	妊娠	13 ( 38.2 %)	7 ( 31.8 %)	7 ( 30.4 %)	16 ( 38.1 %)	672 ( 27.4 %)
顕微授精 胚移植	採卵	360	414	521	510	6,890
	移植	212	206	252	230	4,529
	妊娠	38 ( 17.9 %)	49 ( 23.8 %)	49 ( 19.4 %)	42 ( 18.3 %)	905 ( 20.0 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	389	392	474	524	4,556
	移植	364	370	446	487	4,111
	妊娠	103 ( 28.3 %)	135 ( 36.5 %)	154 ( 34.5 %)	167 ( 34.3 %)	1,112 ( 27.0 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	19	22	3	19	148
	移植	17	17	1	17	121
	妊娠	6 ( 35.3 %)	6 ( 35.3 %)	0 ( 0.0 %)	7 ( 41.2 %)	42 ( 34.7 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	153
	移植	0	0	0	0	151
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	38 ( 25.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	44
	移植	0	0	0	0	44
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	5 ( 11.4 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	22
	移植	0	0	0	0	21
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	2 ( 9.5 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	18
	移植	0	0	0	0	18
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	5 ( 27.8 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	3
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	1 ( 33.3 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	8
	移植	0	0	0	0	0
	妊娠	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)	0 ( 0.0 %)
小計	採卵	450	491	582	614	10,535
	凍結融 解周期	408	414	477	543	4,707
	移植	627	615	722	776	11,454
	妊娠	160 ( 25.5 %)	197 ( 32.0 %)	210 ( 29.1 %)	232 ( 29.9 %)	2,782 ( 24.3 %)
ART*以外の妊娠数	179	172	171	185	3,790	
妊娠総数	339	369	381	417	6,572	

\*採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出来ます

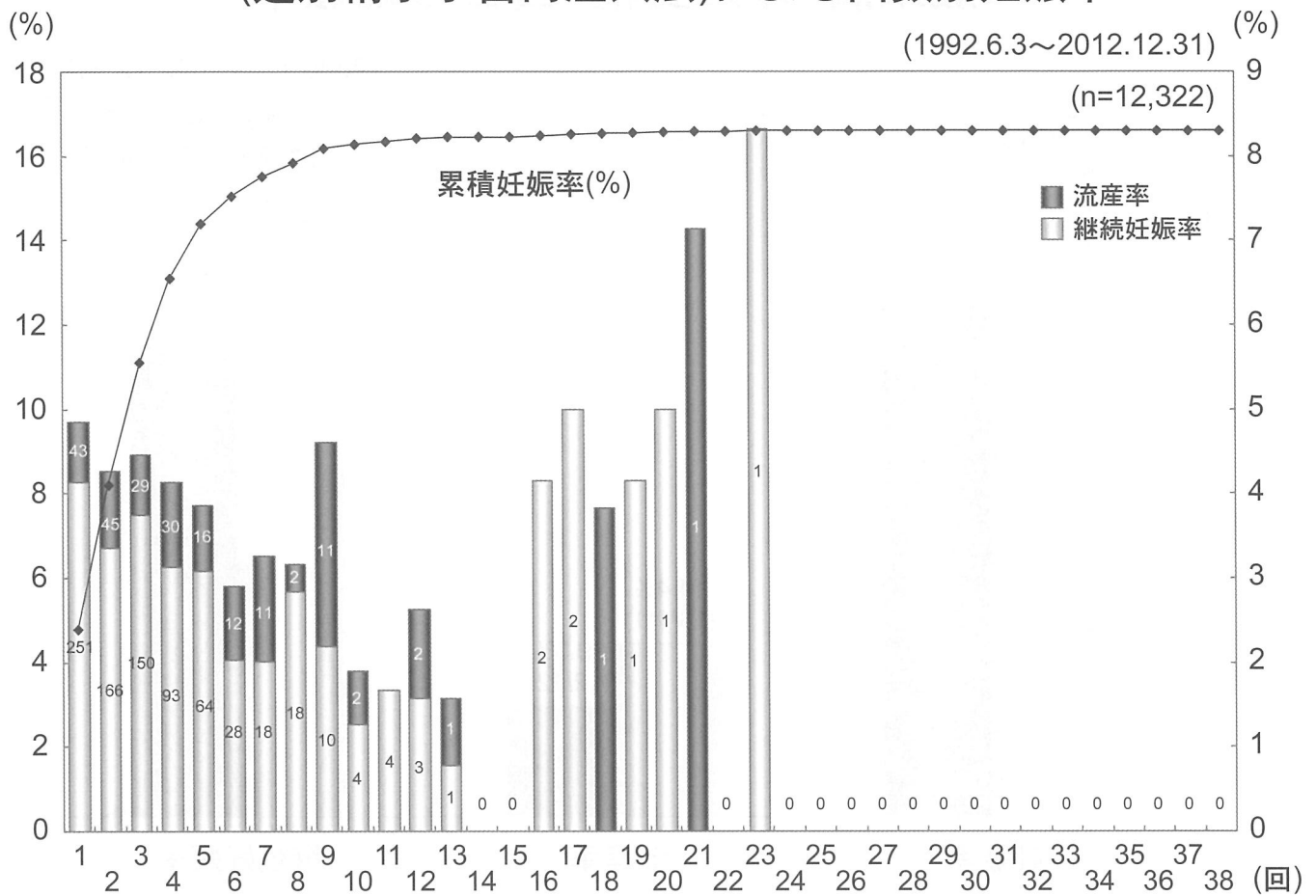
## 初診後妊娠までの期間



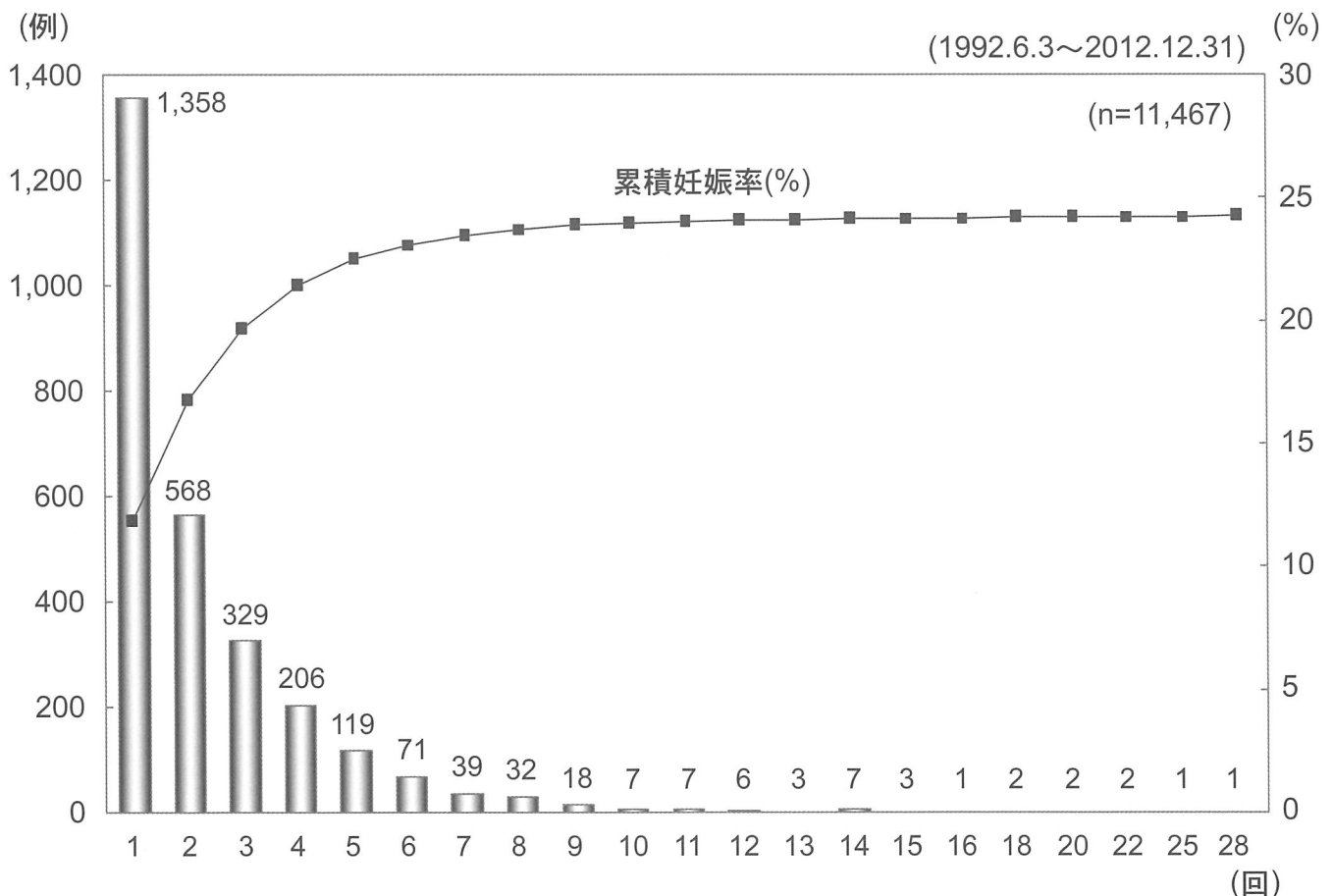
## 腹腔鏡検査後妊娠までの期間



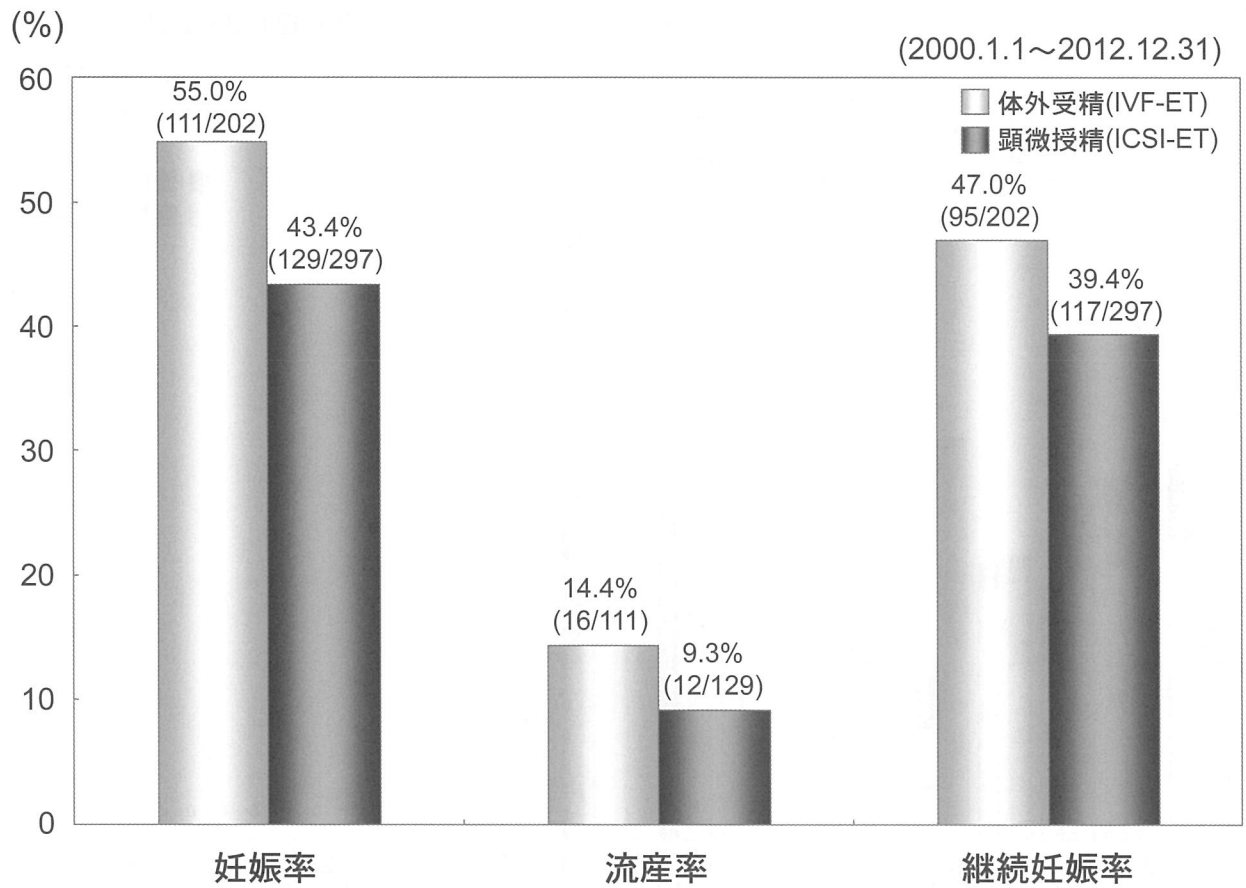
## IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



## ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



# 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



## ART(生殖補助医療)による妊娠 (1992.6.3~2012.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	3,422	2,477 ( 72.4 %)	674 ( 27.2 %)	162 ( 24.0 %)
MF-ET (男性因子 以外も含む)	6,919	4,547 ( 65.7 %)	910 ( 20.0 %)	262 ( 28.8 %)
(ICSI)	6,388	4,449 ( 69.6 %)	899 ( 20.2 %)	257 ( 28.6 %)
GIFT	153	151 ( 98.7 %)	38 ( 25.2 %)	13 ( 34.2 %)
ZIFT	44	44 ( 100 %)	5 ( 11.4 %)	1 ( 20.0 %)
CRYO-ET	4,707	4,235 ( 90.0 %)	1,155 ( 27.3 %)	388 ( 33.6 %)
ART.total	15,245	11,454 ( 75.1 %)	2,782 ( 24.3 %)	826 ( 29.7 %)

## ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(1992.6.3~2012.12.31)

出産周期	1,745 周期	妊娠結果が判明している 1,745 周期に限る		
妊娠結果				
	満期産	1,422 周期 ( 81.49% )	死産	22 周期 ( 1.26% )
	満期産、死産*	3 周期 ( 0.17% )	流産	28 周期 ( 1.60% )
	満期産、外妊*	1 周期 ( 0.06% )	流産、死産*	1 周期 ( 0.06% )
	早産	251 周期 ( 14.39% )	奇形中絶	5 周期 ( 0.29% )
	早産、死産*	7 周期 ( 0.40% )	人工妊娠中絶	2 周期 ( 0.11% )
	過期産	3 周期 ( 0.17% )		
多胎妊娠に ついて	1,994 児	単胎	1,507 例 ( 86.4% )	1,507 児
		双胎	227 例 ( 13.0% )	454 児
		品胎	11 例 ( 0.6% )	33 児
低体重児	440 児 ( 22.1% )			
異常児	162 児 ( 8.1% )	うち奇形を含む主な異常		96 児 ( 4.8% )

\* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

# 異常児の詳細 (1992.6.3~2012.12.31)

主な異常	172 児	172 児 / 4,770 児 (3.6%)		うち ART*児: 96児 / 1,994児 (4.8%) ART以外児: 76児 / 2,776児 (2.7%)	
		ART	ART以外		
染色体異常	11 児	6 児	5 児	関節異常	3 児 0 児
脳・神経系異常	11 児	13 児	0 児	胎児水腫	3 児 4 児
心臓・血管系異常	18 児	21 児	0 児	腫瘍	1 児 1 児
内臓疾患	8 児	8 児	0 児	ヘルニア	4 児 2 児
甲状腺機能低下症	2 児	2 児	0 児	停留精巣	2 児 0 児
縦隔気腫	1 児	1 児	0 児	小人症疑い	0 児 1 児
胸郭低形成	1 児	0 児	1 児	Cornelia de Lange症候群	1 児 0 児
耳鼻系異常	4 児	5 児	0 児	Russell-Silver症候群	0 児 1 児
眼系疾患	2 児	1 児	1 児	Sturge-Weber症候群	0 児 1 児
小顎症	0 児	1 児	0 児	奇形中絶	3 児 3 児
口唇裂・口唇蓋裂	10 児	3 児	7 児	出産後死亡	5 児 1 児
手足形成異常	6 児	1 児	5 児		

\*生殖補助医療



セント・ルカ産婦人科

# 一年のあゆみ



# セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2012.1.1～2012.12.31)

学会発表 . . . . .	50 題	
院長	4	
看護部	16	
研究室・培養室	30	
学会講演会参加 . . . . .	41 回	
研修会 . . . . .	29 回	
論文 . . . . .	1 編	
著書（共著） . . . . .	2 編	
主催講演 . . . . .	5 回	
セント・ルカセミナー	1	総参加人数 80 名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4	総参加人数 338 名
講演・講師 . . . . .	16 回	
院長	8	
看護部	7	
研究室・培養室	1	
不妊カウンセラー活動 . . . . .	34 回	
新患教室	8	総参加人数 596 名
体外受精教室	11	総参加人数 714 名
ガーネットサークル	3	総参加人数 10 名
オリーブの会	11	総参加人数 67 名
治療を終結した方を囲む会	1	総参加人数 10 名



# 行事一覧(1)

---

- 2012
- 1.4 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
  - 1.6 2012年度 JISART 部門別研修担当者話し合い(広島) 参加<熊迫、大津>
  - 1.6 クリニック(福岡)より2名ご来院
  - 1.7 第1回 JISART フォローアップ担当者のための研修(東京) 講師<上野> 参加<院長>
  - 1.10 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.13)取材
  - 1.12 東北大学(宮城)より2名ご来院
  - 1.14 第61回新患教室 参加者64名 参加<大城、大津、阿南、坂本、手島、川村、後藤裕>
  - 1.17 第154回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生、伊藤節彦先生ご来院
  - 1.19 セント・ルカ産婦人科新病院施設半年点検
  - 1.21 第33回日本エンドメトリオース学会(長崎) 参加<手島、越光、院長>
  - 1.22 無加湿型インキュベーターのユーザーミーティング(愛知) 参加<熊迫、大津>
  - 1.22 医療従事者の雇用の質の向上のための研修会(大分) 参加<越名、後藤裕>
  - 1.24 ISO9001 マネジメントレビュー
  - 1.24 院内全体研修:避難訓練のまとめ、消防法について(担当:研究室・培養室)
  - 1.28 第177回体外受精教室 参加者70名 参加<山路、大城、小池、阿南、北田、岡田、赤嶺、関>
  - 1.28 第10回第7期オリーブの会 参加者3名
  - 2.4 第15回胎児遺伝子診断研究会(東京) 参加<佐藤、院長>  
発表:「着床前診断の適応症例についての考察」(大津英子)
  - 2.6 第15回セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、  
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、  
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、  
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
  - 2.7 第155回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
  - 2.15 平成23年度第3回 地域子育て支援連絡会議(大分)  
講演:「子どもの死や障がいに向き合う母親への心理的サポート」(上野桂子)
  - 2.18 第62回新患教室 参加者83名 参加<後藤香、手島、川村、足立直、後藤裕>
  - 2.18 日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖心理カウンセラー・不妊相談士第3回継続研修会(福岡) 参加<篠田、上野>
  - 2.19 第9回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(福岡) 参加<関、篠田>  
MSD ランチョンセミナー座長:院長  
一般口演座長:上野桂子  
発表:「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(二宮睦)
  - 2.21 第6回別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津>
  - 2.25 第11回第7期オリーブの会 参加者2名
  - 2.25 第38回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
  - 2.26 JISART 施設認定審査審査員研修(東京) 参加<越名、大津、後藤裕、院長>
  - 2.28 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.14)取材
  - 3.3 第178回体外受精教室 参加者60名 参加<熊迫、北田、岡田、二宮、赤嶺、篠田>
  - 3.4 産婦人科診療ガイドライン講習会「婦人科外来編2011」(大分) 参加<河邊、院長>
  - 3.6 第107回大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、平松、青木、西郡、足立小、越名、金子、佐藤、後藤香、熊迫、大津、指山、坂本、手島、北田、川村、岡田、亀井、足立直、松元、二宮、赤嶺、河野、関、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>  
発表:「不妊治療における染色体検査の意義」(城戸京子)  
「タイミング治療患者の性生活に関する意識調査」(齊高美穂)
  - 3.7 株式会社バーソン・マーステラ『妊活.net』「妊娠出産に備える体づくり」・「女性として健康でいることの大切さ」をテーマとしたインタビュー取材
-

## 行事一覧(2)

---

- 3.10 第48回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者73名  
講師<後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長> 参加<平松、大城、足立小、金子、坂本、手島、川村、足立直>
- 3.13 第156回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 3.15 診療報酬及び介護報酬改正に伴う県下一斉説明会(大分) 参加<大城、青木、西郡、足立小、越名>
- 3.17 卵巣に関する国際カンファレンス2012(東京)  
講演:「Epigenetics of assisted reproduction」(院長)  
発表:「An Anticancer Drug (Cyclophosphamide) Influences to the Fertilization and Embryo Growth in Mouse」(小池恵)  
「The Methylation Analysis of Normal Genotype in ART Conceptus and Sperm」(佐藤晶子)  
**(Poster Award 受賞)**
- 3.19 日本産科婦人科学会倫理委員会意見聴取のため参加(東京) <院長>
- 3.22 第4回JISART フォローアップ部会・第2回JISART 予後調査部門会(大阪) 参加<上野>
- 3.24 第12回第7期オリーブの会 参加者2名
- 3.24 日本生殖再生医学会理事会(東京) 参加<院長>
- 3.25 日本生殖再生医学会第7回学術集会(東京)大会長:院長 参加<青木、越名>  
カレントトピックス「ARTにおけるエピジェネティック機構」座長:院長  
講演:シンポジウム「当院の着床前診断への取り組み」(大津英子)  
発表:「体外成熟培養(IVM)における出産時の臍帯血メチル化インプリントの解析」(佐藤晶子)  
「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」(熊迫陽子)
- 3.25 平成24年度診療報酬改正メディコム説明会(大分) 参加<西郡、足立小>
- 3.31 第179回体外受精教室 参加者49名 参加<大城、小池、北田、岡田、二宮、赤嶺、越光>
- 3.31 第49回ガーネットサークル OG1名、参加者3名
- 4.2 大分大学医学部 鈴木馨先生研修のためご来院(4月13日まで)
- 4.2 新職員 萬美那子(看護部)
- 4.2 第43回アルメイダ病院開院記念式典(大分) 参加<院長>
- 4.6 第35回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、大城、青木、西郡、足立小、越名、金子、小池、佐藤、城戸、熊迫、長木、指山、手島、北田、川村、岡田、足立直、二宮、斉高、赤嶺、河野、関、越光、後藤裕、河邊、院長>  
「男性不妊症とその要因」(旭川医科大学 産婦人科学講座 教授 千石一雄先生)
- 4.7 第63回新患教室 参加者73名 参加<越名、城戸、萬、坂本、手島、川村、足立直、後藤裕>
- 4.7 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 4.10 第157回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.21 第8回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<河野、越光、河邊>  
発表:「挙児希望のある子宮内膜症性卵巣嚢胞症例の取り扱いについて」(院長)
- 4.22 第69回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<越光、上野、河邊>  
クリニカルアドバンスⅢ座長:院長  
発表:「ART後の流産における絨毛染色体検査結果が正常の絨毛と対応精子のメチル化解析」  
(佐藤晶子)  
「Implantation window を考慮した DAY5 凍結胚盤胞の融解日および移植日調整の有用性について」(後藤香里)  
「着床前診断の適応症例についての考察」(大津英子)  
「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里砂)  
「不妊治療施設における肥満患者に対する体重管理について」(足立直美)  
「「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して」(松元恵利子)  
「治療体験者を招いての患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(河野絢子)
- 4.22 日本生殖医学会九州・沖縄支部会評議員会(福岡) 参加<院長>
-

## 行事一覧(3)

---

- 4.26 第10回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会(北海道) 参加<院長>  
発表:「不妊治療専門施設における検体の取り違い防止と感染防止について」(長木美幸)  
「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里砂)
- 4.28 第180回体外受精教室 参加者49名 参加<足立小、大津、萬、北田、岡田、二宮、赤嶺、関>
- 5.8 第158回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.12 第49回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者63名  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、  
おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<工藤、金子、萬、手島、足立直>
- 5.18 厚生労働省科学研究費児の調査実務担当者会議(東京) 参加<工藤>
- 5.19 第1回第8期オリーブの会 参加者8名
- 5.20 第2回ナースのためのART医学セミナー2012(東京) 参加<岡田、越光>  
講演:「子宮卵管造影検査の落とし穴」(院長)
- 5.20 第53回日本哺乳動物卵子学会総会学術講演会胚培養士セッションのためのミーティング(東京)  
参加<院長>
- 5.20 JISART 施設認定審査 審査員<上野>
- 5.22 ISO9001 マネジメントレビュー
- 5.22 第16回セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員: 上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、  
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、  
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、  
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
- 5.26 第53回日本哺乳動物卵子学会総会学術講演会(大阪)  
講演:「ヒト卵管内液組成に基づく胚培地の検討(2)ヒト余剰胚による検討」(院長)  
発表:「ART後の流産における絨毛染色体検査結果が正常の絨毛と対応精子のメチル化解析」  
(佐藤晶子)  
「Implantation window を考慮した DAY5 凍結胚盤胞の融解日および  
移植日調整の有用性について」(後藤香里)
- 5.26 日本哺乳動物卵子学会理事会(大阪) 参加<院長>
- 5.26 第11回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(大阪) 参加<院長>
- 5.27 日本哺乳動物卵子学会評議員会(大阪) 参加<院長>
- 6.1 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.15)取材
- 6.2 第181回体外受精教室 参加者64名 参加<足立小、長木、萬、北田、岡田、赤嶺、二宮、河野>
- 6.3 第19回セント・ルカセミナー  
講師 品川 信良先生<弘前大学名誉教授 セミナー医療と社会代表>  
「生殖医(科)学と人口問題のこれまでとこれから」  
座長 森 崇英先生<京都大学名誉教授 NPO 法人生殖再生医学アカデミア 理事長>  
講師 青木 不学先生<東京大学新領域創成科学研究科 教授>  
「卵のクオリティ(成熟能と発生能)について」  
座長 佐藤 英明先生<東北大学大学院農学研究科動物生殖科学分野 教授>  
講師 河村 和弘先生<聖マリアンナ医科大学大学病院生殖医療センター長>  
「休眠原始卵胞の人為的活性化技術を応用した早発閉経患者の新たな不妊治療法の開発」  
座長 宮川 勇生先生<大分大学名誉教授>  
講師 有馬 隆博先生<東北大学大学院医学系研究科情報遺伝学分野 教授>  
「胎盤形成とゲノムインプリンティング」  
座長 宇津宮 隆史先生<セント・ルカ産婦人科 院長>

## 行事一覧(4)

- 講師 才村 真理先生<帝塚山大学心理福祉学部 教授>  
「生殖補助医療と家族の絆～子どもの福祉の視点から～」
- 座長 上野 桂子先生<セント・ルカ産婦人科 臨床心理士 生殖心理カウンセラー>  
総合ディスカッション座長 榎原 久司先生<大分大学医学部産科婦人科学教室 教授>
- 6.4 新職員 白倉操(看護部)
- 6.5 院内全体研修：防災訓練(担当：受付)
- 6.9 第4回 JISART 心理教育セミナー(東京) 参加<上野>
- 6.9 第5回 JISART 事務教育セミナー(東京) 参加<足立小、越名>
- 6.9 第5回 JISART ラボ教育セミナー(東京) 参加<大津>  
発表：「ラボ環境について：移設に向けてこだわったこと」(熊迫陽子)
- 6.9 第9回 JISART 看護教育セミナー(東京) 参加<篠田、後藤裕>
- 6.9 第39回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
- 6.10 第10回 JISART シンポジウム(東京) 参加<足立小、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、院長>
- 6.12 第159回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.13 佐賀大学(佐賀)より1名ご来院
- 6.14 セント・ルカセミナー打上げ
- 6.16 第64回新患教室 参加者89名 参加<越名、後藤香、白倉、萬、坂本、足立直、後藤裕>
- 6.16 第1回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 6.17 第6回不妊症セミナー『不妊治療 知っておきたい心とカラダ』(熊本)  
講演：「二人で歩く不妊治療～こころのお話～」(上野桂子)
- 6.22 日本受精着床学会平成24年度第1回常務理事会(東京) 参加<院長>
- 6.23 第24回大分内視鏡外科研究会(大分) 参加<坂本、手島、北田、岡田、越光、後藤裕、河邊>  
発表：「当院の子宮鏡手術症例の検討」(院長)
- 6.24 JISART 非配偶者間生殖医療実施施設の医師・スタッフ向け研修(大阪) 講師<上野>
- 6.24 第4回 JISART フォローアップ部会・第2回 JISART 相談部門会(大阪) 参加<上野>
- 6.28 大分県母性衛生学会実行委員会(大分) 参加<後藤裕>
- 6.30 第2回第8期オリーブの会 参加者7名
- 7.1 28th Annual Meeting of ESHRE(Turkey) 参加<平松、関、事務長、院長>
- 7.3 第108回大分県周産期研究会(大分) 参加<青木、西郡、足立小、越名、金子、小池、城戸、長木、指山、白倉、萬、坂本、手島、北田、岡田、亀井、斉高、赤嶺、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊>  
発表：「不妊治療後の流産における染色体検査結果が正常であった絨毛の  
ゲノムインプリント遺伝子の解析」(大津英子)  
「不妊治療施設における肥満患者に対する体重管理について」(足立直美)
- 7.5 大分県立看護科学大学大学院(大分)講義  
講義：「不妊治療における加齢患者に対する支援」(上野桂子)
- 7.8 第4回 JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修(大阪) 講師<上野>
- 7.10 第160回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 7.12 大分県立看護科学大学大学院(大分)講義  
講義：「不妊治療の終結における支援」(上野桂子)
- 7.14 第182回体外受精教室 参加者68名 参加<平松、足立小、城戸、白倉、北田、二宮、赤嶺、越光>
- 7.14 日本家族心理学会第29回大会(東京)  
講演：自主シンポジウム「不妊治療専門施設におけるカウンセリングの実践報告  
～男性不妊症を中心に～」(上野桂子)
- 7.15 第5回 JISART フォローアップ部会・第3回 JISART 予後調査部門会(東京) 参加<上野>

## 行事一覧(5)

- 7.16 日本産科婦人科学会『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医』  
認定講習会(東京) 参加<院長>
- 7.17 院内全体研修：心肺蘇生法、AED の使用方法(担当：看護部)
- 7.18 読売新聞東京本社編集局医療情報部記者 取材の為に来院
- 7.18 厚生労働省科学研究費児の調査実務担当者会議(東京) 参加<工藤>
- 7.21 第8回ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者 10名
- 7.24 第31回日本受精着床学会 第1回 Scientific Adviser 会議 参加<大津、後藤裕、上野、院長、  
Scientific Adviser：大分大学医学部産科婦人科学教室准教授 河野康志先生、  
大分大学医学部産科婦人科学教室教授 檜原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生>
- 7.28 第3回第8期オリーブの会 参加者 8名
- 8.2 読売新聞東京本社社会部記者 取材の為に来院
- 8.4 第50回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 98名  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、  
おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<山路、金子、白倉、坂本、足立直>
- 8.4 第2回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 8.7 第161回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 8.11 第183回体外受精教室 参加者 73名 参加<足立小、大津、白倉、北田、岡田、篠田>
- 8.11 第50回ガーネットサークル 参加者 3名
- 8.12 職員旅行(徳島組) 参加<山路、平松、工藤、西郡、足立小、佐藤、熊迫、長木、指山、手島、  
亀井、足立直、松元、二宮、関、篠田、後藤裕、上野、事務長、院長>
- 8.18 第4回第8期オリーブの会 参加者 8名
- 8.20 平成24年厚生労働科学研究吉村班班会議(東京) 参加<工藤、院長>
- 8.20 厚生労働省科学研究費児の調査実務担当者会議(東京) 参加<工藤>
- 8.24 第207回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊>
- 8.25 第65回新患教室 参加者 68名 参加<越名、佐藤、坂本、手島、関>
- 8.25 第19回臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<城戸>
- 8.28 院内全体研修：院内感染についての勉強会(担当：看護部)
- 8.29 日本受精着床学会常務理事会(大阪) 参加<院長>
- 8.30 第30回日本受精着床学会総会学術講演会(大阪) 参加<平松、工藤、足立小、越名、篠田、  
後藤裕、上野、河邊、事務長>  
パネルディスカッション「非配偶者間の生殖医療」座長：院長  
発表：「ART後の流産における絨毛染色体検査結果が正常の絨毛と対応精子のメチル化解析」  
(佐藤晶子)
- 「Implantation window を考慮した DAY5 凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里)  
「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者の ART 予後」(大津英子)  
「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里砂)  
「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して」(松元恵利子)  
「治療体験者を招いての患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(河野絢子)
- 8.30 日本受精着床学会世界体外受精会議記念賞選考委員会(大阪) 参加<院長>
- 8.30 日本受精着床学会理事会(大阪) 参加<院長>
- 8.30 職員旅行(福岡組) 参加<油野、大城、青木、金子、城戸、坂本、北田、岡田、斉高、  
赤嶺、越光>
- 8.31 日本受精着床学会評議員会(大阪) 参加<院長>
- 8.31 第40回 JISART 理事会(大阪) 参加<院長>
- 8.31 4th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction(大阪)  
Session4「Quality Assessment」座長：院長  
講演：「Epigenetics of assisted reproduction」(院長)

## 行事一覧(6)

- 発表：「The Influence of the Anticancer Drug Cyclophosphamide on Fertilization and Embryo Growth in a Mouse Model」(小池恵)  
「The Methylation Analysis of Normal Genotype in ART Conceptus and Sperm」(佐藤晶子)  
「Respiratory Activity Assessment using Oxygen Consumption Volume of a Single Blastocyst: the Relationship between Pre-freezing and Post-thawing」(熊迫陽子)
- 9.5 抗がん剤セミナー(大分) 参加<小池>
- 9.8 第66回新患教室 参加者51名 参加<平松、越名、城戸、萬、坂本、足立直、後藤裕>
- 9.8 第3回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 9.9 第10回日本生殖看護学会学術集会(神奈川) 参加<篠田、越光、上野、院長>
- 9.11 第162回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 9.13 第52回日本産科婦人科内視鏡学会(北海道) 参加<岡田、関>  
発表：「挙児希望のある子宮内膜症性卵巣嚢胞症例の取り扱いについて」(院長)
- 9.13 日本産科婦人科内視鏡学会 第7回コンセンサスミーティング(北海道) 参加<院長>
- 9.15 第5回第8期オリーブの会 参加者7名
- 9.17 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』冬号(Vol.16)取材(北九州) 参加<院長>
- 9.18 院内全体研修：胚発育に関して(担当：研究室・培養室)
- 9.20 平成24年度第210回「いきいき健康講座」(大分) 参加<平松、大城、西郡、越名、坂本、二宮>  
講演：「ホルモンバランスの乱れが引き起こす更年期障害」(院長)
- 9.22 「遺伝学的手法における診断の効果的な実施体制に関する研究」班主催 平成24年度公開シンポジウム ゲノム診療の未来を考えるー遺伝学的検査の提供体制のあり方ー(東京) 参加<城戸>
- 9.23 第4回生殖補助医療胚培養士セミナー(東京) 参加<熊迫、長木>
- 9.24 読売新聞東京本社編集局医療情報部記者 取材の為に来院
- 9.25 院内全体研修：SarahBaseとは？(担当：情報処理室)
- 9.25 第31回日本受精着床学会 第2回 Scientific Adviser 会議 参加<工藤、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長、Scientific Adviser：大分大学医学部産科婦人科学教室准教授 河野康志先生、大分大学医学部産科婦人科学教室教授 檜原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生>
- 9.27 第19回日本胚移植研究会大会(富山)  
講演：「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床的意義」(院長)
- 9.29 第184回体外受精教室 参加者90名 参加<足立小、小池、岡田、二宮、赤嶺、河野>
- 9.29 第15回日本IVF学会(大阪)  
発表：「Rapid-i™法と従来のストロー法を用いた胚盤胞凍結融解成績の比較」(城戸京子)  
「子宮の胚受容期間(Implantation window)を考慮した  
DAY5凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里)
- 9.30 第9回大分県母性衛生学会(大分) 参加<指山、萬、坂本、北田、岡田、亀井、二宮、斉高、赤嶺、河野、篠田、越光、後藤裕、院長>  
発表：「不妊治療施設における肥満患者に対する体重指導について」(足立直美)
- 10.1 第1回受着会議 参加<工藤、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 10.4 JISART フォローアップ部会 第3回相談部門会(大阪) 参加<上野>
- 10.6 第19回遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(北九州) 参加<城戸、篠田、後藤裕、院長>  
発表：「着床前スクリーニングに対する医療者側の意識調査」(大津英子)
- 10.9 第163回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 10.13 第67回新患教室 参加者83名 参加<越名、後藤香、北田、足立直、関>
- 10.13 第6回第8期オリーブの会 参加者8名
- 10.13 第4回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 10.14 JISART 施設認定審査 審査員<後藤裕>

## 行事一覧(7)

- 10.15 第2回受着会議 参加<平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、河邊、院長>
- 10.17 第36回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、工藤、大城、青木、西郡、足立小、越名、佐藤、後藤香、熊迫、長木、指山、萬、坂本、北田、岡田、亀井、足立直、二宮、斉高、赤嶺、河野、関、越光、後藤裕、上野、河邊>  
招請講演「ジェノゲストの子宮内膜に対する効果」座長：院長  
(大分大学医学部 産科婦人科学教室 准教授 河野康志先生)  
特別講演「卵巣の生理とインスリン様成長因子」  
(杏林大学医学部 産科婦人科学教室 教授 岩下光利先生)
- 10.20 68th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine(San Diego)  
参加<越光、事務長>  
発表：「DNA methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate in the parental sperm」(院長)  
「The Influence of the Anticancer Drug Cyclophosphamide on Fertilization and Embryo Growth in a Mouse Model」(小池恵)
- 10.24 日本人類遺伝学会第57回大会(東京) 参加<城戸>  
発表：「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者のART予後」(大津英子)
- 10.26 第3回大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加<岡田、斉高、赤嶺、関>
- 10.27 第185回体外受精教室 参加者77名 参加<足立小、佐藤、北田、岡田、赤嶺、篠田>
- 10.28 JISART 施設認定審査 審査員<上野>
- 10.29 第3回受着会議 参加<平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、河邊、院長>
- 10.30 第164回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 11.2 大分ゼロックス主催 Microsoft セミナー(大分) 参加<山路、平松、工藤>
- 11.3 第5回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 11.4 JISART 施設認定審査
- 11.6 第31回日本受精着床学会 第3回 Scientific Adviser 会議 参加<平松、工藤、越名、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長、Scientific Adviser：大分大学医学部産科婦人科学教室 准教授 河野康志先生、大分大学 医学部産科婦人科学教室教授 檜原久司先生、大分大学名誉教授 宮川勇生先生>
- 11.7 IFFS International Meeting 2015「第1回組織委員会」(長崎) 参加<院長>
- 11.8 第57回日本生殖医学会総会・学術講演会(長崎) 参加<山路、工藤、西郡、越名、越光、後藤裕、上野>  
シンポジウム8「非配偶者間生殖医療の問題点」座長：院長  
講演：シンポジウム8「Overview 非配偶者間生殖医療の問題点」(院長)  
発表：「ART後の流産絨毛染色体検査結果が正常であった絨毛と対応する夫精子のメチル化解析」(佐藤晶子)  
「Rapid-i™法と従来のストロー法を用いた胚盤胞凍結融解成績の比較」(城戸京子)  
「子宮の胚受容期間(Implantation window)を考慮したDAY5凍結胚盤胞の早期融解の試み」(後藤香里)  
「男性相互転座保因者とロバートソン型転座保因者のART予後」(大津英子)  
「在宅自己注射におけるヒヤリ・ハットアンケート調査」(亀井里砂)  
「「妊娠に至らず治療終了した元患者を困む会」を開催して」(松元恵利子)  
「治療体験者を招いての患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(河野絢子)
- 11.8 医療ガス保安講習会(大分) 参加<斉高、赤嶺>
- 11.9 第211回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<矢野、大城、青木、足立小、小池、萬、坂本、北田、二宮、篠田>
- 11.10 第7回第8期オリーブの会 参加者7名

## 行事一覧(8)

- 11.13 日本産科婦人科学会・公開シンポジウム「出生前診断—母体血を用いた出生前遺伝子学的検査を考える」(東京) 参加<城戸、大津、上野、院長>
- 11.16 JOYの会(大分) 参加<河邊>
- 11.17 第51回『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 104名  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、  
おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<平松、大城、小池、坂本、手島、足立直、篠田>
- 11.18 第1回 JISART 児の長期予後調査検討会(東京) 参加<工藤、足立小>
- 11.18 第1回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加<越名>
- 11.18 大分県臨床心理士会医療部会研修会(大分)  
講演:「着床前診断・出生前診断から始まる家族の選択」(上野桂子)
- 11.20 ISO9001 マネジメントレビュー
- 11.20 院内全体研修: インフルエンザについて(担当: 看護部)
- 11.22 第43回大分市医師会医学会(大分) 参加<山路、平松、西郡、越名、佐藤、長木、指山、萬、  
坂本、手島、北田、岡田、亀井、赤嶺、篠田、越光、後藤裕、上野、院長>  
発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド;CPA)投与によるマウスの卵巣機能への影響」(小池恵)  
「第7回「妊娠に至らず治療終了した元患者を囲む会」を開催して」(松元恵利子)
- 11.24 第186回体外受精教室 参加者 69名 参加<足立小、熊迫、北田、岡田、二宮、赤嶺、篠田>
- 11.26 第4回受着会議 参加<工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、  
河邊、院長>
- 11.27 院内全体研修: 防災訓練(担当: 看護部)
- 11.30 平成24年度 第2回大分産科婦人科学会 大分県産婦人科医会研修会(大分) 参加<河邊>
- 12.1 第51回ガーネットサークル OG 1名、参加者 4名
- 12.1 第41回 JISART 理事会(広島) 参加<院長>
- 12.3 第5回受着会議 参加<平松、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、河邊、院長>
- 12.6 第210回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<院長>
- 12.8 第68回新患教室 参加者 85名 参加<越名、大津、坂本、手島、足立直、後藤裕>
- 12.10 第9回別府遺伝医学セミナー(別府) 参加<城戸、大津、院長>
- 12.11 第165回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 12.15 第187回体外受精教室 参加者 45名 参加<足立小、長木、北田、岡田、二宮、赤嶺、河野>
- 12.15 第8回第8期オリーブの会 参加者 7名
- 12.15 第6回2012年度(第6期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<手島>
- 12.16 平成24・25年度 日本産婦人科医会がん部会事業研修会(大分) 参加<河邊、院長>
- 12.19 大分県立看護科学大学(大分)講義 参加<山路、大城、小池、坂本、亀井、越光>  
講義:「不妊症講座」(院長)
- 12.19 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.17)取材
- 12.22 忘年会
- 12.24 クリスマス会
- 2013 1.7 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
- 1.7 新職員 後藤厚子(研究室・培養室)
- 1.8 第166回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 1.12 第69回新患教室 参加者 73名 参加<越名、後藤香、坂本、手島、足立直、篠田>
- 1.13 第188回体外受精教室 参加者 64名 参加<足立小、佐藤、北田、岡田、赤嶺、篠田>
- 1.15 第17回セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員: 上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、  
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、  
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、  
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
- 1.16 日本放送協会(NHK)大分放送局より記者1名取材の為ご来院



## 行事一覧(9)

---

- 1.18 第34回日本エンドメトリオーシス学会(栃木) 参加<手島、越光>  
発表:「子宮腺筋症核出術を行った患者の検討」(院長)
- 1.18 第22回大分婦人科悪性腫瘍研究会(大分) 参加<河邊>
- 1.19 第9回第8期オリーブの会 参加者6名
- 1.21 第6回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 1.25 第213回大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊、院長>
- 1.26 JISART 研究倫理申請(2012-05号)ヒアリング(大阪) 参加<院長>
- 1.28 第7回受着会議 参加<山路、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 1.31 第4回 JISART フォローアップ部会予後調査部門会(東京) 参加<上野>
- 1.31 第6回 JISART フォローアップ部会(東京) 参加<上野>
- 2.1 第8回受着会議 参加<山路、平松、工藤、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 2.1 第7回大分女性医学フォーラム(大分) 参加<河邊、院長>
- 2.2 第16回胎児遺伝子診断研究会(東京) 参加<城戸、大津>  
発表:「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」(院長)
- 2.2 第5回 JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修(大阪)  
講師:「JISART フォローアップ部会について」(上野桂子)  
「被提供者の子どもへの告知についてのカウンセリング演習」(上野桂子)
- 2.3 第4回 JISART フォローアップ部会相談部門会(大阪) 参加<上野>
- 2.5 第9回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、大津、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 2.9 第52回『赤ちゃん~今ならきっと授かる~』講座(大分・トキハ会館) 参加者80名  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、  
おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<工藤、城戸、坂本、足立直、斉高>
- 2.10 第2回 JISART 児の長期予後調査検討会(東京) 参加<足立小>
- 2.12 第167回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 2.15 第10回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 2.18 IVF 詠田クリニック院内研修(福岡)  
講演:「生殖医療われわれの取り組み」(院長)
- 2.23 第189回体外受精教室 参加者52名 参加<足立小、小池、松土、二宮、関>
- 2.23 第10回第8期オリーブの会 参加者4名
- 2.23 日本放送協会(NHK)大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
- 2.25 第11回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、関、篠田、後藤裕、河邊、院長>
- 2.26 新 Server 入れ替え OS: Microsoft Windows Server 2008 R2 DB: Oracle11g
- 2.28 JOYの会(大分) 参加<河邊>
- 3.1 新職員 河野愛、戸高里美(看護部)
- 3.2 日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖心理カウンセラー・生殖医療相談士継続研修(宮城)  
参加<篠田、上野>
- 3.2 日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会(宮城) 参加<上野、院長>
- 3.3 第10回日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(宮城)  
教育セミナーシリーズ「生殖心理カウンセリングの現状と将来」座長: 院長  
講演: パネルディスカッション「チーム医療の役割「絆」-生命の原点をみつめなおす-  
心理士の立場から」(上野桂子)

## 行事一覧(10)

- 発表：「妊娠に至らず「治療終了した元患者を囲む会」を開催して」(松元恵利子)  
「治療体験者を招いての患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(篠田多加子)
- 3.4 第110回大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、平松、大城、青木、足立小、小池、佐藤、後藤香、指山、萬、坂本、手島、岡田、亀井、松元、二宮、赤嶺、関、越光、後藤裕、上野、院長>
- 発表：「当院における多胎妊娠予防に対する取り組み」(城戸京子)  
「治療体験者を招いての患者会(オープングループ)の取り組みと課題」(篠田多加子)
- 3.8 株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.18)取材
- 3.9 日本生殖再生医学会役員会(東京) 参加<院長>
- 3.10 日本生殖再生医学会第8回学術集会(東京) 参加<院長>
- 発表：「抗がん剤(シクロフォスファミド)投与によるマウス受精および胚発育能に及ぼす影響」  
(小池恵)  
「ART後の流産の絨毛染色体検査結果が正常核型の絨毛と対応精子のメチル化解析」  
(佐藤晶子)
- 3.12 第168回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 3.12 大分産婦人科 update(大分) 参加<河邊、院長>
- 3.16 第52回ガーネットサークル OG1名、参加者4名
- 3.16 第42回JISART理事会(東京) 参加<院長>
- 3.20 第70回新患教室 参加者85名 参加<油野、越名、佐藤、坂本、斉高、足立直、越光>
- 3.22 日本受精着床学会平成24年度第3回常務理事会(東京) 参加<院長>
- 3.27 日本放送協会(NHK)大分放送局より取材の為ご来院
- 3.27 大分放送(OBS)より取材の為ご来院
- 3.28 大分放送(OBS) OBS イブニングニュース「不妊治療助成金制度について」放送
- 3.28 ジェナさんとJISARTフォローアップ委員会との交流会(大阪) 参加<上野>
- 3.30 第190回体外受精教室 参加者60名 参加<足立小、熊迫、河野、戸高、岡田、松土、関>
- 3.30 第11回第8期オリーブの会 参加者5名
- 3.30 日本放送協会(NHK)大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
- 4.1 新職員 下川侑樹乃(研究室・培養室)、稗田真由美(心理専門相談室)
- 4.1 日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖医療相談士認定<看護部：手島しおり>
- 4.5 日本放送協会(NHK)大分放送局より取材の為ご来院
- 4.9 第169回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.9 第18回セント・ルカ産婦人科倫理委員会  
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、  
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、  
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護部顧問)、  
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
- 4.10 第12回受着会議 参加<山路、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、上野、院長>
- 4.13 第71回新患教室 参加者67名 参加<越名、下川、後藤香、戸高、坂本、足立直、斉高、篠田、稗田>
- 4.13 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・七瀬川)
- 4.16 第13回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 4.18 第11回日本臨床医学リスクマネジメント学会(東京) 参加<院長>
- 発表：「生殖補助医療における多胎妊娠予防に対する取り組み」(城戸京子)  
「不妊治療施設におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」  
(手島しおり)

## 行事一覧(11)

- 4.19 第37回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、平松、工藤、大城、青木、西郡、足立小、越名、下川、佐藤、長木、大津、戸高、坂本、北田、岡田、亀井、松元、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、稗田、上野、河邊、院長>  
「生殖医療と家族のかたち」(埼玉医科大学 産婦人科 教授 石原理先生)
- 4.20 第9回九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<岡田、越光、河邊>  
発表:「当院の子宮鏡手術症例の検討」(院長)
- 4.21 第70回九州・沖縄生殖医学会(福岡) 参加<上野>  
「ART成績」座長: 院長  
発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド;CPA)投与によるマウス卵巣機能への影響」(小池恵)  
「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」  
(熊迫陽子)  
「不妊治療施設におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」  
(手島しおり)  
「妊娠・出産に対する意識調査—高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に—」  
(岡田清美)  
「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」(越光直子)  
「ヒヤリ・ハット報告～連携ミス事例を振り返って～」(後藤裕子)  
「子宮内膜症性卵巣嚢胞エタノール固定後の卵巣予備能の変化」(河邊史子)
- 4.21 九州・沖縄生殖医学会評議員会(福岡) 参加<院長>
- 4.21 日本卵子学会 生殖補助医療管理胚培養士更新審査(東京) <大津>
- 4.26 第14回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 4.27 第191回体外受精教室 参加者65名 参加<足立小、下川、佐藤、戸高、岡田、松土、関、稗田>
- 4.27 第12回第8期オリーブの会 参加者8名
- 4.27 日本放送協会(NHK)大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
- 4.27 第15回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 4.30 第16回受着会議 参加<山路、平松、足立小、越名、熊迫、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 5.2 日本放送協会(NHK)しんけんワイド大分「出生前診断についてどう向き合うか」放送
- 5.7 第170回聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.7 第17回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 5.8 第18回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 5.10 第65回日本産科婦人科学会(北海道) 参加<院長>
- 5.10 IFFS International Meeting 2015「第2回組織委員会」(北海道) 参加<院長>
- 5.11 日本受精着床学会倫理委員会(北海道) 参加<院長>
- 5.11 第6回JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修(大阪) 講師<上野>
- 5.18 第53回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者61名  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<平松、下川、城戸、戸高、坂本、足立直、斉高、稗田>
- 5.21 第19回受着会議 参加<山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長>
- 5.25 第13回第8期オリーブの会
- 5.25 第54回日本卵子学会(東京) 参加<院長>  
発表:「抗がん剤(シクロフォスファミド)投与によるマウス卵巣機能への影響」(小池恵)  
「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」  
(熊迫陽子)

## 行事一覧(12)

---

- 5.25 日本卵子学会 第12回培地開発委員会(東京) 参加<院長>  
5.25 日本卵子学会理事会(東京) 参加<院長>  
5.26 第2回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加<越名>  
6.8 第5回 JISART 心理教育セミナー(宮城) 参加<上野>  
6.8 第6回 JISART 受付教育セミナー(宮城) 参加<青木、越名>  
6.8 第6回 JISART ラボ教育セミナー(宮城) 参加<熊迫、大津>  
6.8 第10回 JISART 看護教育セミナー(宮城) 参加<篠田、後藤裕>  
6.8 第43回 JISART 理事会(宮城) 参加<院長>  
6.9 第11回 JISART シンポジウム(宮城) 参加<青木、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野>  
「JISART 児の長期予後調査のお話」座長：院長  
講演：「ようこそ大分へ (第31回日本受精着床学会の見所)」(院長)  
部門間ディスカッション「当院の新人教育」(越名久美)
- 6.15 第72回新患教室  
6.21 日本受精着床学会 平成25年度 第1回常務理事会(東京) 参加<院長>  
6.22 第53回ガーネットサークル  
6.29 第25回大分内視鏡外科研究会(大分)  
6.30 平成25年度大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会総会(大分)  
7.10 大分県立看護科学大学(大分)講義  
講義：「不妊症講座」(院長)
- 7.13 第4回遺伝カウンセリング研修会(京都) 参加予定<院長>  
8.8 第31回日本受精着床学会総会・学術講演会(別府)大会長：院長  
シンポジウム2「非配偶者間生殖医療」座長：院長  
講演：会長講演「これからの生殖医療—生まれてくるこどものために」(院長)  
市民公開講座「抗がん剤(シクロフォスファミド:CPA)投与による  
マウス生殖機能への影響」(小池恵)  
シンポジウム「新たな閉鎖系 vitrification 法を用いた胚盤胞の凍結融解胚移植における  
臨床成績の比較」(城戸京子)  
「電気化学計測技術を応用したヒト胚品質評価法の開発と  
不妊治療における臨床的有用性に関する研究」(熊迫陽子)  
「治療終結における支援—心理士の立場から」(上野桂子)  
「子宮内膜症性卵巣嚢腫のエタノール固定後の卵巣予備能、  
再発、悪性化について」(河邊史子)  
ワークショップ「当院における医療安全対策と今後の課題」(後藤裕子)  
ランチョンセミナー「配偶者(夫または妻)に染色体異常を有する症例へのアプローチ(仮)」  
(大津英子)
- 発表：「ART 後の流産絨毛と対応夫精子のメチル化解析」(佐藤晶子)  
「HRT 周期における DAY5 凍結胚盤胞の至適融解移植日の検討」(後藤香里)  
「不妊治療施設におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」  
(手島しおり)  
「妊娠・出産に対する意識調査—高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に—」  
(岡田清美)  
「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」(越光直子)
- 8.9 第44回 JISART 理事会(別府) 参加予定<院長>  
8.17 JISART 生殖医療サマーフォーラム(東京)参加予定 講演<院長>  
8.31 第54回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)  
講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、  
おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>  
9.6 第23回遺伝医学セミナー(千葉) 参加予定<院長>
-

## 論文一覧

---

- 2012 「夫が均衡型染色体転座 46,XY,t(9;14)(q22.1;q32.1)を有した症例における着床前診断の報告」  
(大津英子) 大分医師会医学雑誌アルメイダ医報 38(2): 11-14, 2012
- 2013 「非配偶者間生殖医療（提供精子人工授精：AID）の実態と今後の課題  
—AID で生まれた方々の意識調査をもとにして—」（院長）  
日本受精着床学会雑誌 30(1): 146-159, 2013
- 「Respiratory Activity of Single Blastocysts Measured by Scanning Electrochemical Microscopy:  
the Relationship between Pre-freezing and Post-warming」（熊迫陽子）  
J. Mamm. Ova Res. 30(1): 30-35, 2013

## 著書(共著)一覧

---

- 2012 「ART における加齢の問題」（院長）『臨床婦人科産科』第 66 巻第 7 号（医学書院）
- 「生殖心理カウンセリング」（上野桂子）『図説よくわかる臨床不妊症学 不妊症治療 up to date』  
(中外医学社)
- 2013 「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床的意義」（院長）  
『日本胚移植学雑誌』第 35 巻 1 号（日本胚移植研究会）
- 「不妊症（原題：Infertility）」（院長）『障害の百科事典（原書：Encyclopedia of Disability）』  
(丸善出版株式会社)
- 「不妊治療終結におけるカウンセリング」（上野桂子／院長）『産科と婦人科』第 80 巻 11 号  
(診断と治療社) (掲載予定)
- 「生殖医療（不妊カウンセリング）」（上野桂子／院長）『臨床心理学』増刊号第 5 号（金剛出版）  
(執筆中)
- 「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」（院長）『産婦人科の実際』（金原出版株式会社）  
(執筆中)
- 「Ⅱ. 一般的不妊診療の実際 1. ルチンテストの再考」（院長）
- 「Ⅱ. 一般的不妊診療の実際 15. 機能性不妊」（院長）『今日の不妊診療 第 2 版』  
(医歯薬出版株式会社) (執筆中)





# 院内活動



# セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

## セント・ルカセミナー

開催頻度：1回/1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、当院多目的ホールにて開催している。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。80名規模で、講師との距離が非常に近いため、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われている。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

2012年参加人数：80名

## 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

開催頻度：1回/3ヵ月

(不妊検査・治療についてのお話。今から治療を考えている方が対象)

受診中の患者さん以外にも広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヵ月に1回外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるように、コーヒーとケーキを用意し開催している。スライドを用いて院長が詳しく説明した後、泌尿器科(協力病院)の先生による男性不妊の治療についてのお話がある。臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による心のお話、看護師による診療やサポート体制についてのお話、受付スタッフによる助成金等のお話も行っている。当院 OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話も聞くことができる。OG自身の治療歴や、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって乗り越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの立場からお話をさせていただける為、毎回好評である。

2012年参加のべ人数：338名

## ガーネットサークル

開催頻度：1回/3ヵ月

(体外受精治療中の患者さんと当院で治療後出産へと至った方との交流会)

当院で治療後、出産へと至った方をお願いして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象をしぼり、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。経験者の話を聞くことにより、患者さんの不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会である。

2012年参加のべ人数：10名

## オリーブの会(第1～8期)

開催頻度：1回/1ヵ月

(40歳以上の患者さんの集い)

治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんの増加に対応するため始められた会である。この会は40歳以上の患者さんの孤独感や不安を軽減させるためと、治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的とし、完全にクローズドの形式で開催している。同じ年代の同じメンバーに、臨床心理士(生殖心理カウンセラー)と看護師を交え、毎回リラックスした自由な話し合いの場となっている。

2012年参加のべ人数：67名

## 治療を終結した方を囲む会

開催頻度：1回/1年

(治療終結に関心のある患者さんの集い)

不妊治療を経験後、治療終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、不妊治療継続中の患者さんに対して、治療当時のお話や、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境や生活についてのお話をさせていただいている。参加者からの質問や参加者同士の意見交換も活発で、治療中の患者さんにとって今後の治療や、これからの二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

2012年参加人数：10名



## 体外受精教室

開催頻度：1回／1ヵ月  
(ART にステップアップする予定の患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受ける患者さん向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が約2時間かけて説明している。スライドに写真や画像を多用し、看護部・培養室・受付からも説明を行っているため、よりわかりやすい内容となっている。原則的にご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療理解にも役立っている。

2012年参加のべ人数：714名

## 新患教室

開催頻度：1回／1ヵ月  
(主に初診から1ヵ月以内の患者さんへの説明会)

当院の多目的ホールにて、初診時の検査から体外受精までを、院長が2時間程度詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室・受付からのお話も行っている。早い時期に夫婦で参加する為、治療に対する理解が深まると同時に、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療理解にも役立っている。

2012年参加のべ人数：596名

## 新患オリエンテーション

開催頻度：初診時

初診時診察終了後に、不妊治療に対する教育を受けた主任クラスの看護師が、約1時間程写真や図を使い患者さんへの病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者さんの質問や不安に対して個別に対応できるので好評である。

## 院長相談

開催頻度：毎週月・水・金曜日の18:00～(予約制)  
治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談、体外受精反復不成功時など普段の診療時間では聞きにくいことを、他の患者さんを気にすることなくゆっくりと相談することができる。

## 心理専門相談室

開催頻度：火・土曜日の午前と金曜日の午前、  
午後(予約制)

2001年より、専門の臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが少しでも安心して治療が受けられるよう、自分達で後悔のない選択ができるように、患者さんが抱える深刻な悩みを幅広く受け止められるよう努めている。また、女性だけでなく男性の個別相談やご夫婦での相談も行っている。

## なんでも相談

### 看護部

開催頻度：随時(予約制)

(主任クラスの看護師による相談)

患者さんが抱えている不安・ストレスや悩み、治療についての質問、ステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談をフォローする為に設けている。オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、患者さんは他者に話を聞かれる心配をせず、ゆったりと相談することができる。

## なんでも相談

### 培養室・検査室

開催頻度：月～土曜日11:00～12:00(予約制)

(胚培養士資格保持者による相談)

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

## 院内研修・ミーティング

開催頻度：毎週火曜日午後

火曜日の午後、職員全員で院内研修およびミーティングを行っている。研究室・培養室からは、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ヒヤリハット」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについて治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

## 全体朝ミーティング

開催頻度：毎朝 5 分程度  
毎朝診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加することにより、一日の診療の流れを把握するのに役立っている。

## 培養室朝ミーティング

開催頻度：毎朝 10 分程度  
培養室にて院長を交え、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を行っている。

## 培養室ミーティング

開催頻度：月 2 回午後  
培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

## その他

開催頻度：随時

### 外来相談係（看護部）

医師の診察時に聞けなかった質問や、細やかな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者さんの電話での問い合わせにも対応している。

### 手術前説明（看護部）：個別説明

手術を予定している方に、手術前の問診・各種検査（胸写・心電図・肺機能検査・血液検査）を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

### 手術前説明（院長）：月・水・金曜日の夕方診療時 （予約制）

手術予定の 1 週間前までにご夫婦でご来院いただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

### 手術後説明（院長）：月・水・金曜日の夕方診療時 （予約制）

手術時の映像（動画）を見ながらご夫婦に、結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

### ART オリエンテーション（看護部）

体外受精に初めて入る患者さんに、看護師が個別に治療内容やスケジュールを説明する。

### ART オリエンテーション（培養室・検査室）

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

腹腔鏡検査での未熟卵子体外成熟培養体外受精胚移植について説明を行う。

### ART に関する説明（培養室・検査室）

体外受精胚移植または融解胚移植前に、説明を行う。

全胚凍結した場合、凍結した胚の説明を行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかった場合に説明を行う。

### ART 結果説明（看護部）

院長より ART の結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

## スタッフ配置

院長 宇津宮隆史

医局 河邊史子、甲斐由布子

### 研究室・培養室

\*\* \* \* \* \*,⊕  
大津英子、長木美幸、熊迫陽子、後藤香里、城戸京子、  
\* \*,⊕  
佐藤晶子、小池 恵、後藤厚子、下川侑樹乃

### 看護部

⊕ ⊕ ⊕  
後藤裕子、越光直子、篠田多加子、関こずえ、赤嶺佳枝、  
齊高美穂、二宮 睦、松元恵利子、足立直美、亀井里砂、  
松土留美、岡田清美、川村智恵、北田奈津枝、手島しおり、  
坂本順子、戸高里美、指山実千代(看護部顧問)

### 心理専門相談室

上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)、  
稗田真由美(臨床心理士)

### 総務部

宇津宮富美子

### 受付

越名久美、足立小百合、西郡朝美、青木麻有、大城麻依

### 情報処理室

工藤由香、平松里美、山路美和

### 厨房

矢野千恵美、油野亜由美

\*\*：日本卵子学会および日本生殖医学会認定  
生殖補助医療管理胚培養士

\*：日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士

⊕：日本生殖医療心理カウンセリング学会認定  
生殖医療相談士

## 病院概要

名 称 医療法人セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

開設年月日 1992年6月3日

住 所 〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号  
TEL 097-547-1234  
FAX 097-547-1221  
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp  
<http://www.st-luke.jp/>  
<http://www.st-luke.jp/imode.htm> (携帯電話用)



許可病床数 13床

職 員 数 総数 43名

常勤医	2名	臨床心理士	2名
非常勤医	1名	総務部	1名(兼任)
研究室・培養室	5名	受付	5名
検査室・培養室	4名	情報処理室	3名
看護師	11名	調理士	2名
准看護師	7名	栄養士	1名

診療時間 (受付予約制)

月・水・金: 8:30～11:30  
13:30～15:30  
17:00～18:30

火・木・土: 8:30～11:30  
(祝日を除く)

<本年報の集計も SarahBase を用いました>



## 2012年度年報

---

2013年6月 発行

発行：医療法人セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

編集：宇津宮 隆史  
〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号  
Tel 097-547-1234  
Fax 097-547-1221  
E-mail [st-luke@oct-net.ne.jp](mailto:st-luke@oct-net.ne.jp)  
<http://www.st-luke.jp/>



